

DOJIN
R18
成人向け

18歳未満の
購入・閲覧禁止

転載
禁止


Reprint is prohibited.

無断転載・複製・複写・
Web上へのアップロード禁止

お茶の子サイダー



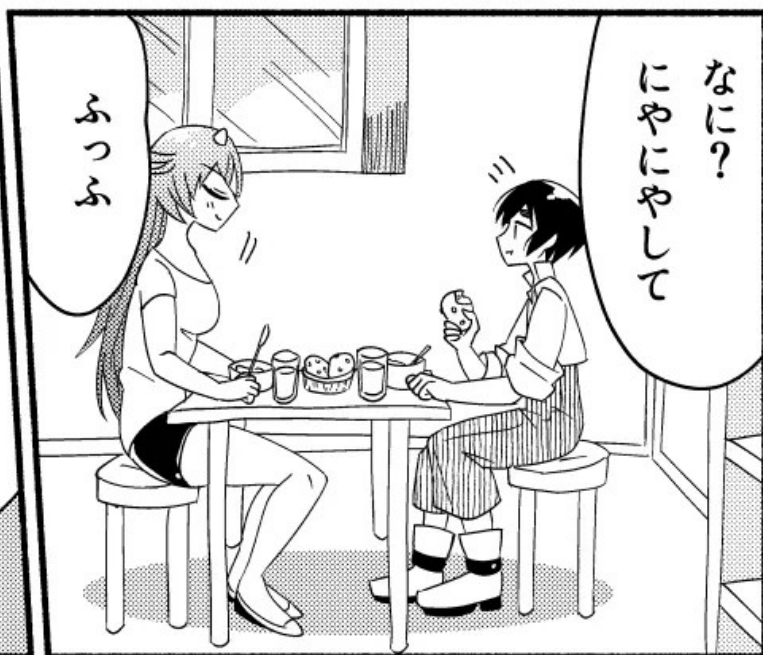
いい子には
いい魔々がいる



きらきらと光る
暖かい場所

僕はそこに行きたい





そんな話も今は昔
彼女たちの出す乳の栄養価の高さが
注目され

子供に限らず大勢の者が
その乳を求めて彼女たちの元を
訪れるようになった

僕もそのうちのひとり
赤ん坊のころ森に
捨てられていたのを
クローに拾われた

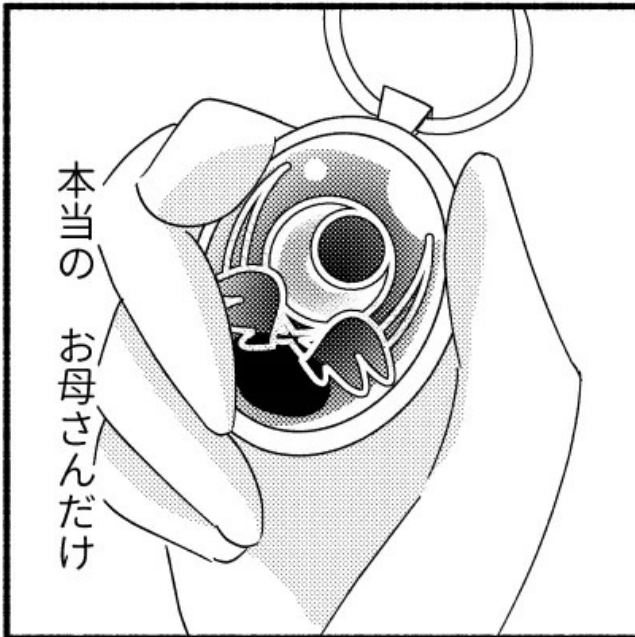


だから本当の誕生日は
知らない

僕の本当の誕生日を知るのは



本当の
お母さんだけ





ギム

ルトル



シオネ!

ちよっとね

またペンダント
見てたのか?



あんまり

俺は...

二人は思わない?
本当のお母さんが
どんな人だったのかって



うん...

シオネのお母さんが
残してくれたんだよね



まあね

それでも
気になつてしまつのは

このペンダントのせいだ

早く遊びに
いこうよ!

うん



僕
ムーが
大好きだもん

俺もメルーが
いるからなあ

シオネだつて
クーと仲良しじゃない

×ルー



ただいま

おかえりっ



今日はなににして遊んだんだ?

森で木登りとか

キタノ森じやないよナ!?

ギロ

ソコノ森だよ
キタノ森はクマが出るから
危ないんだろ



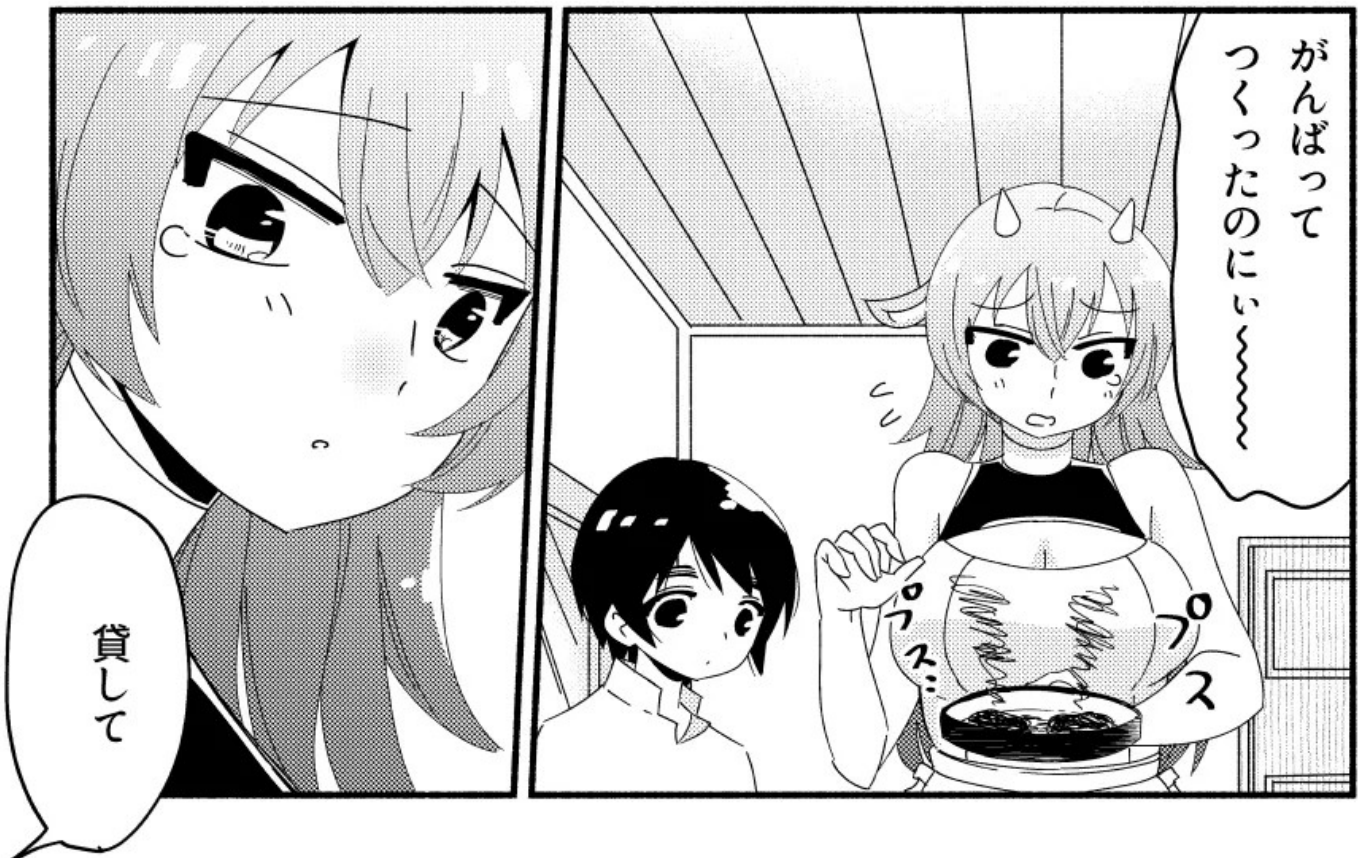
そーか

あ

どした?

ほ

裾がほつれちゃった
みたい





そーか！

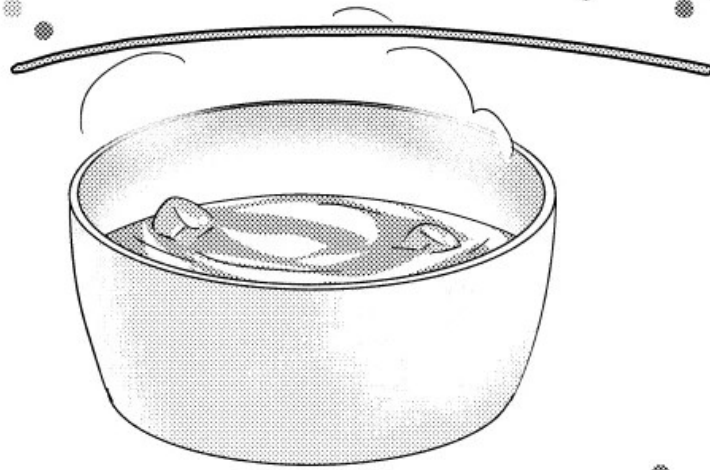
細かく切って
スープにしよう

焦げてるだけだから
削いじゃえばいいよ

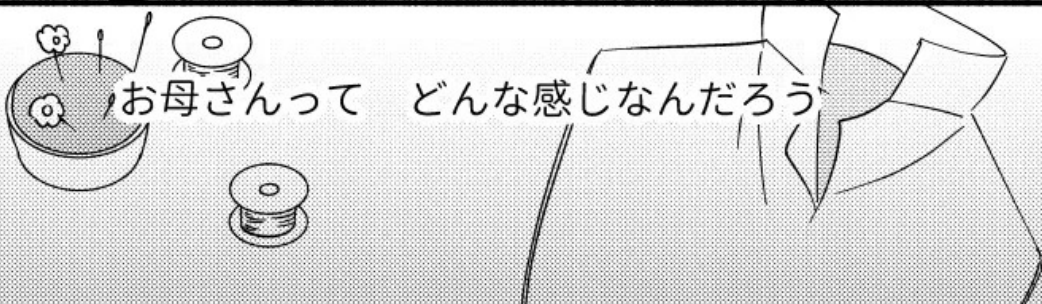


じゃ

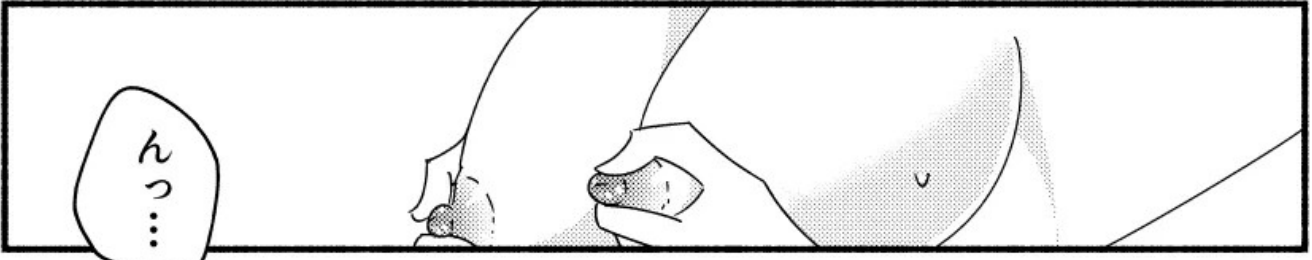
ん



ウマイ！







んっ...



痛くない？

さすが 上手だな

あっ

平気だ

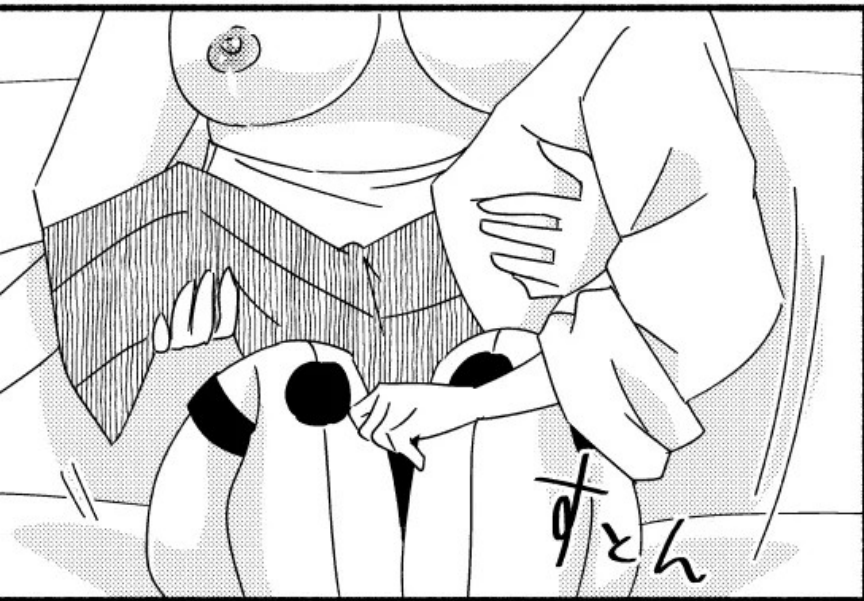
十ッテ
十ッテ





わ

おは





こんな気持ちになつてない



カワイイ坊やだったら



どーだ
ひさびさの
おっぱいは
うまいだろ

いって

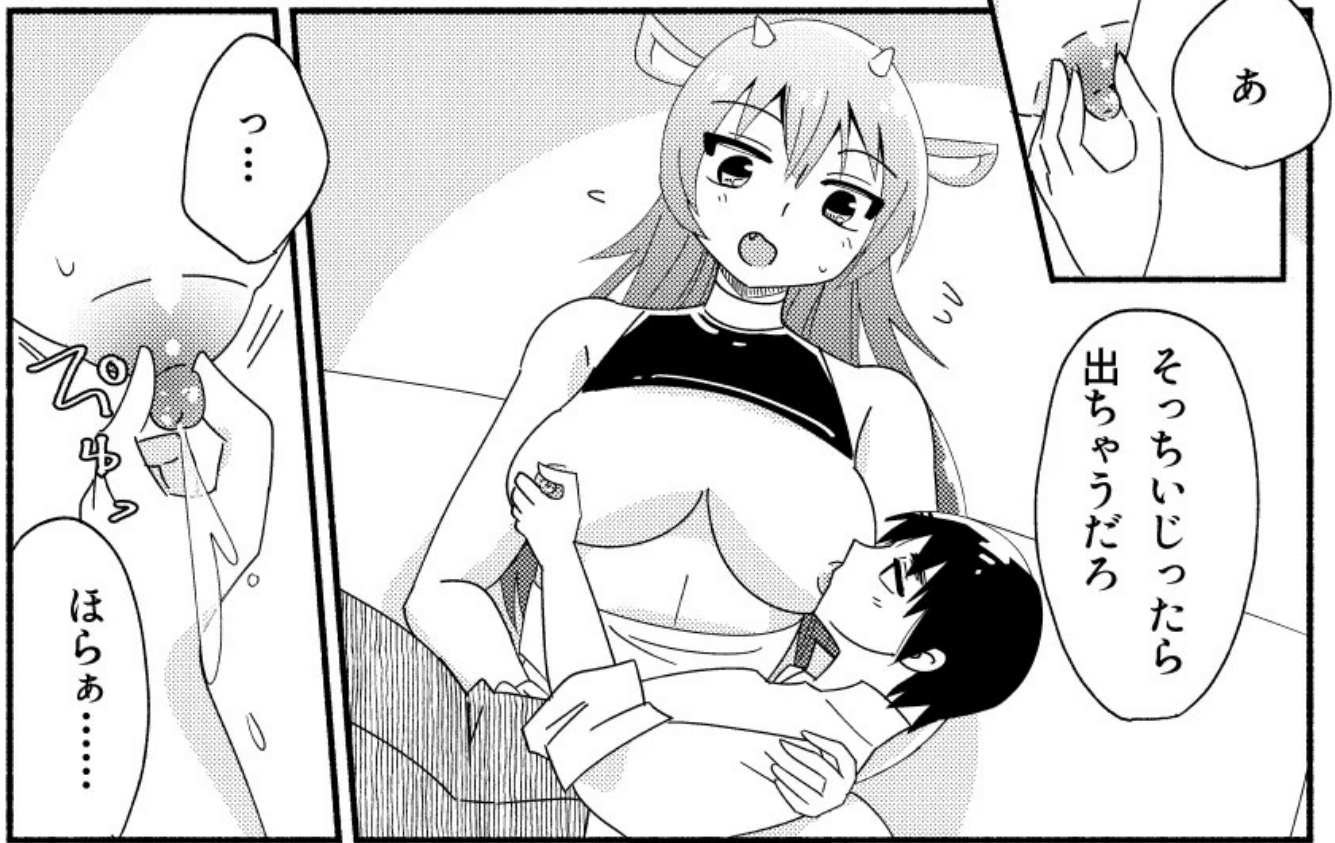
噛むなって



ちゅー

ちゅー
ちゅー

ちゅー
ちゅー



っ...

あ

そっちいじったら
出ちゃうだろ

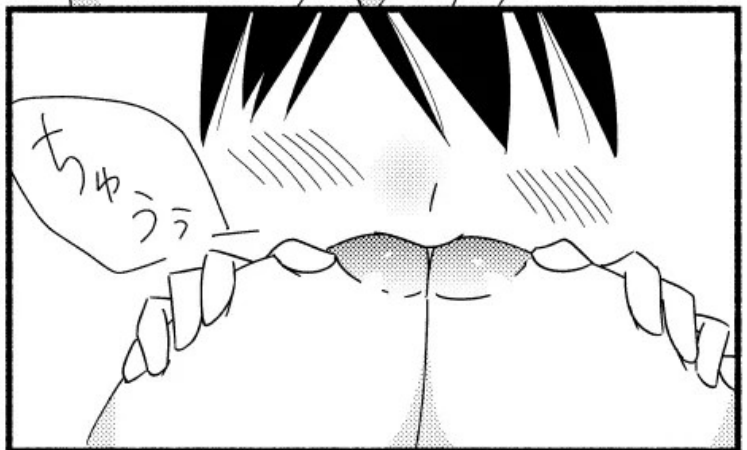
ほらあ.....



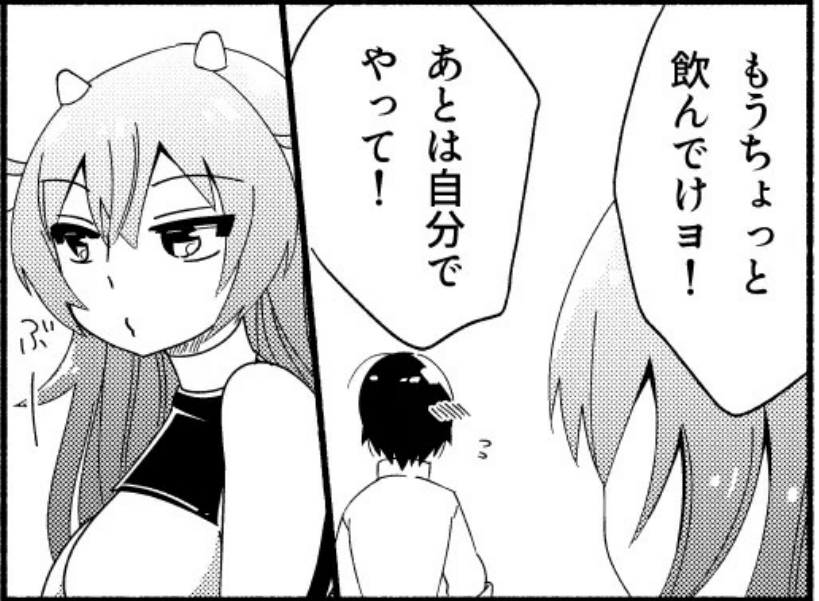
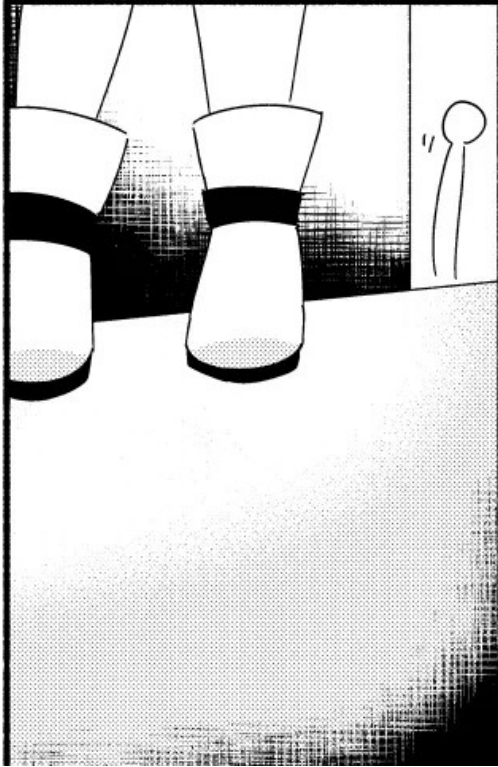
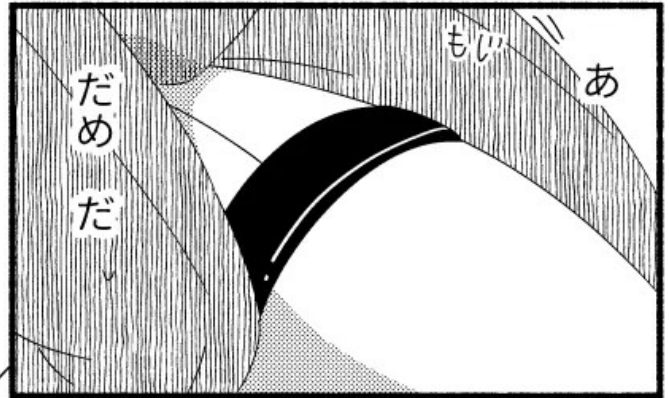
どっちも飲むよ



ちゅっは
ちゅっは



ちゅっは



も
もうおしまい

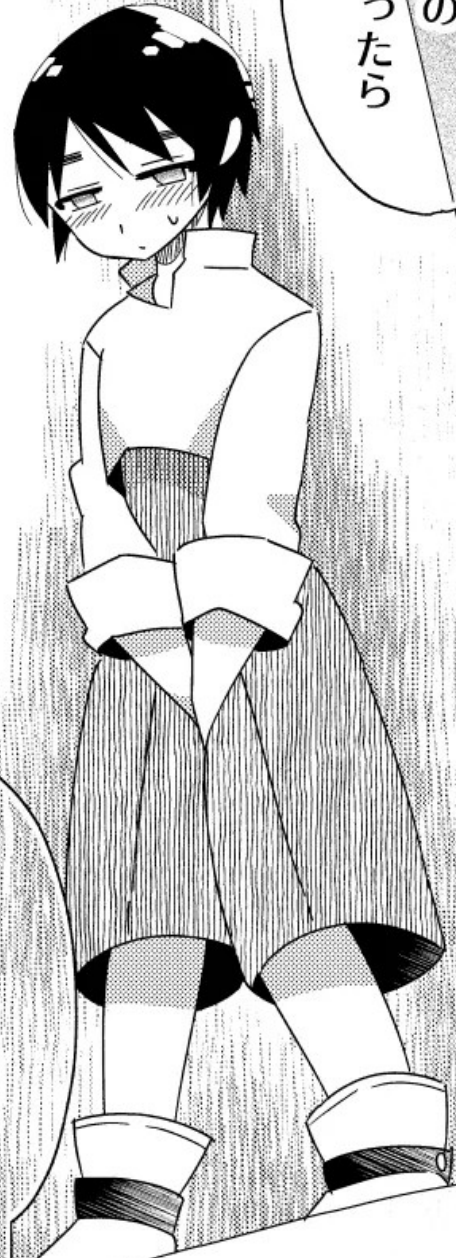
だめだ

も
あ

あとは自分で
やって!

もうちょっと
飲んでけヨ!

クーが本当の
お母さんだったら



図書館はどう？

今日は
どこに行く？

天気いいし
外で遊ぼうよ



あっ
キタノ森は？

木の実
拾うのか？
いいな

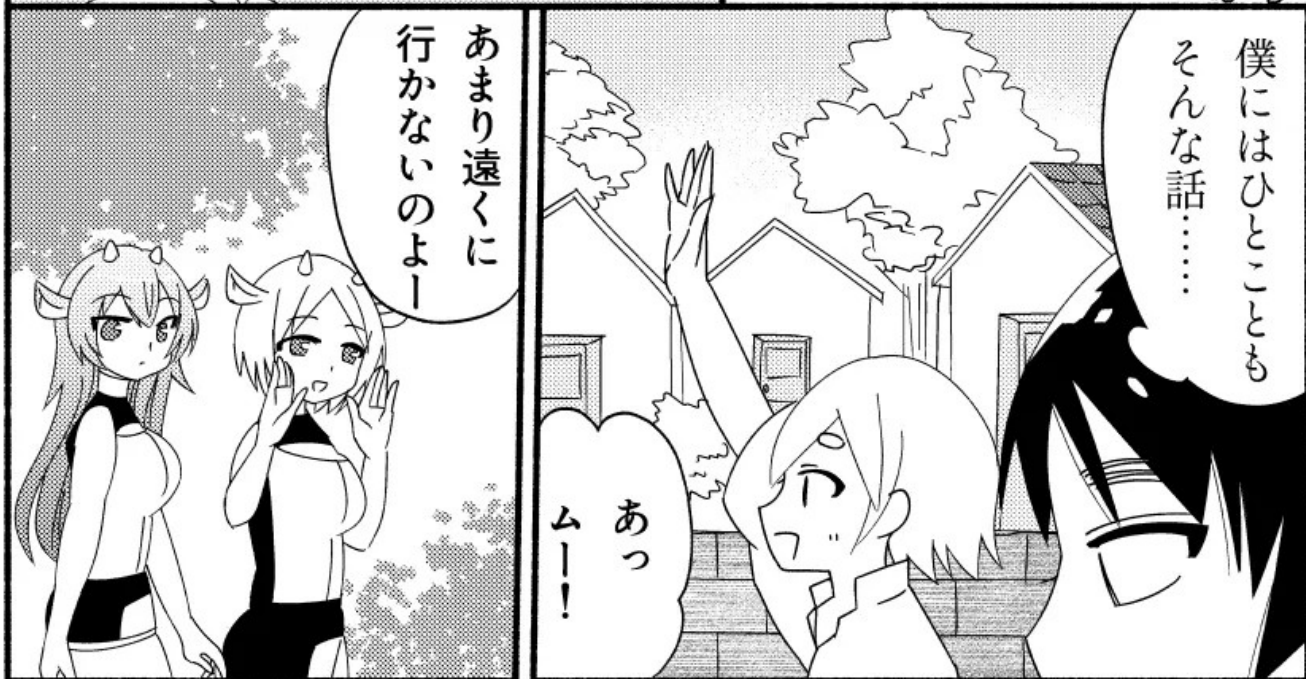
キタノ森は
だめだよ

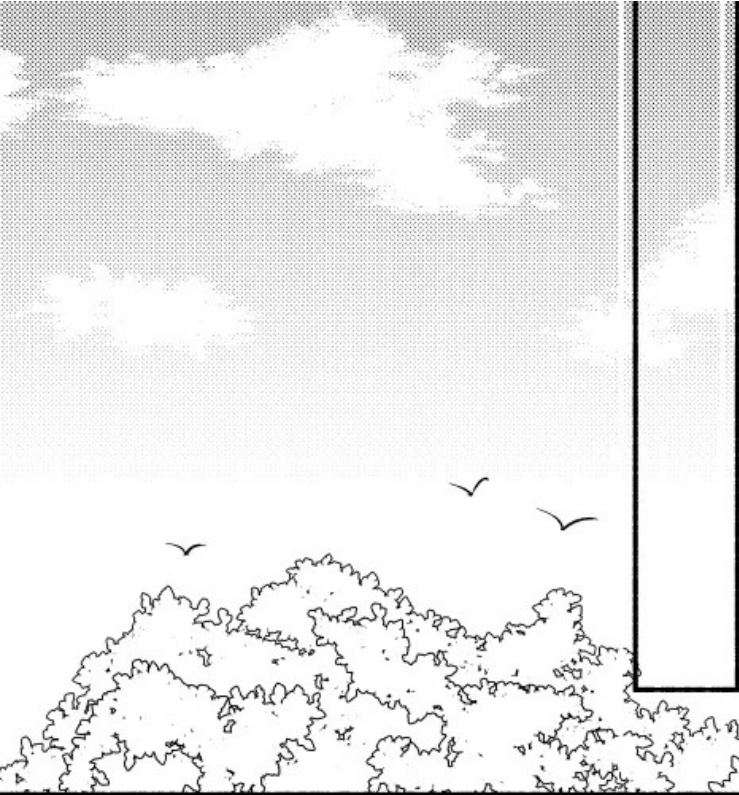
こんな気持ちに

なっていないのか？

なんで？







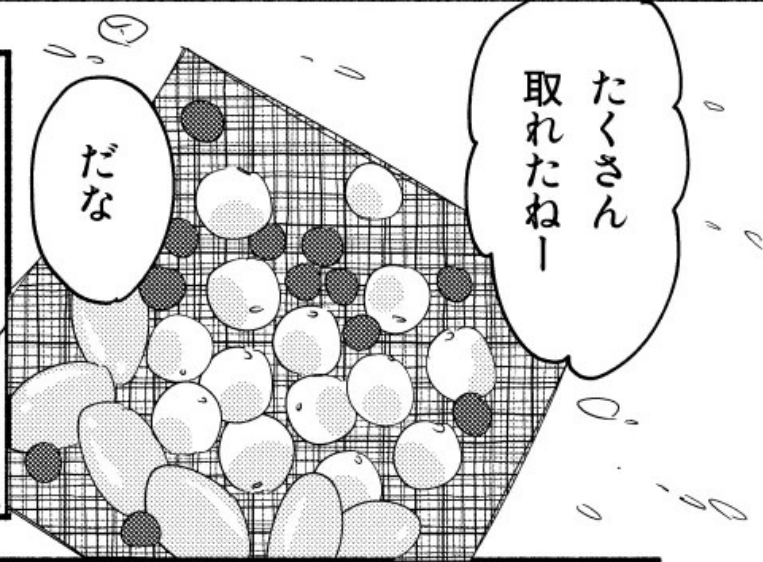
クー………？



な？

クマいないだろ

うん…



だな

たくさん
取れたねー



湧き水で
手洗ってくる

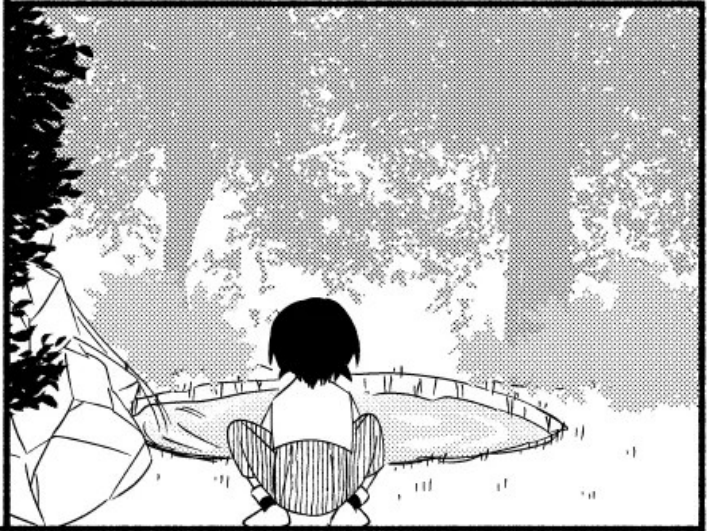
シオネ？

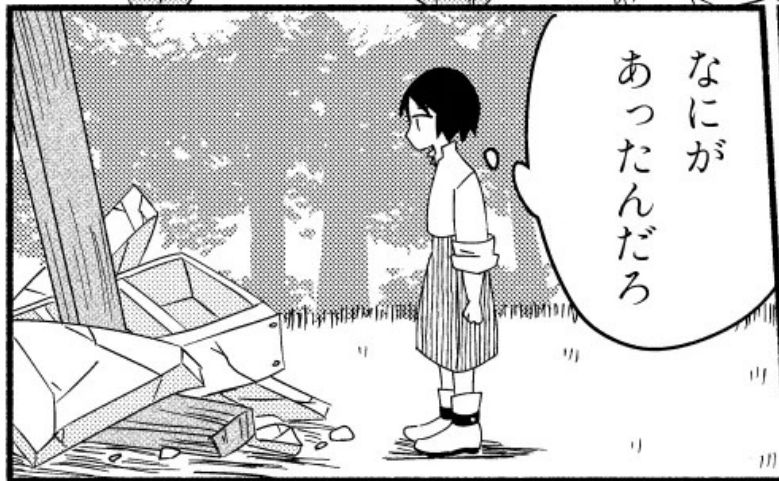


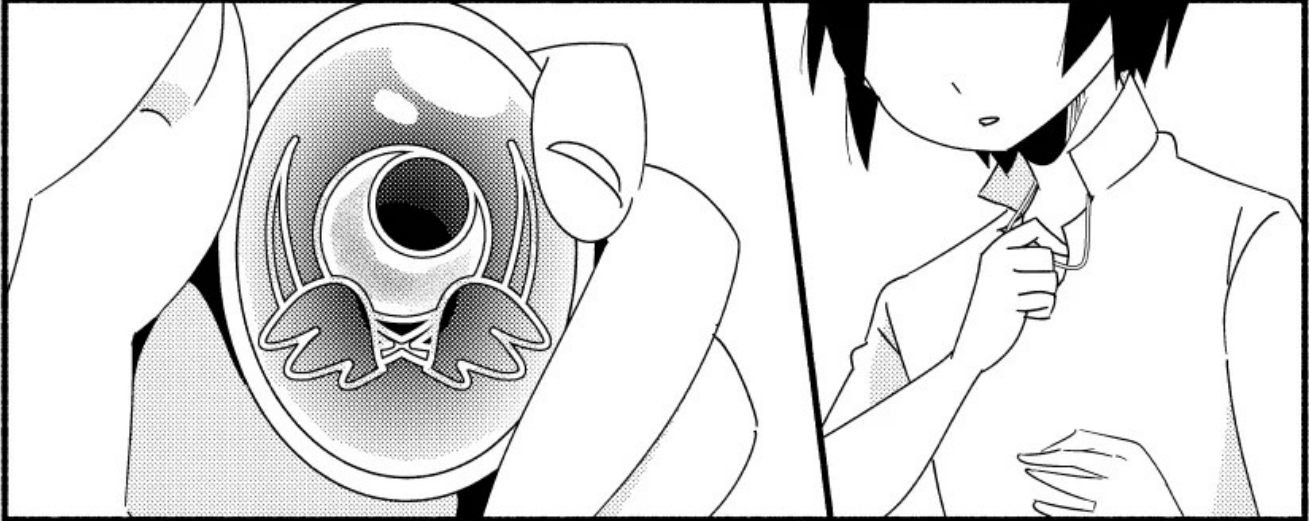
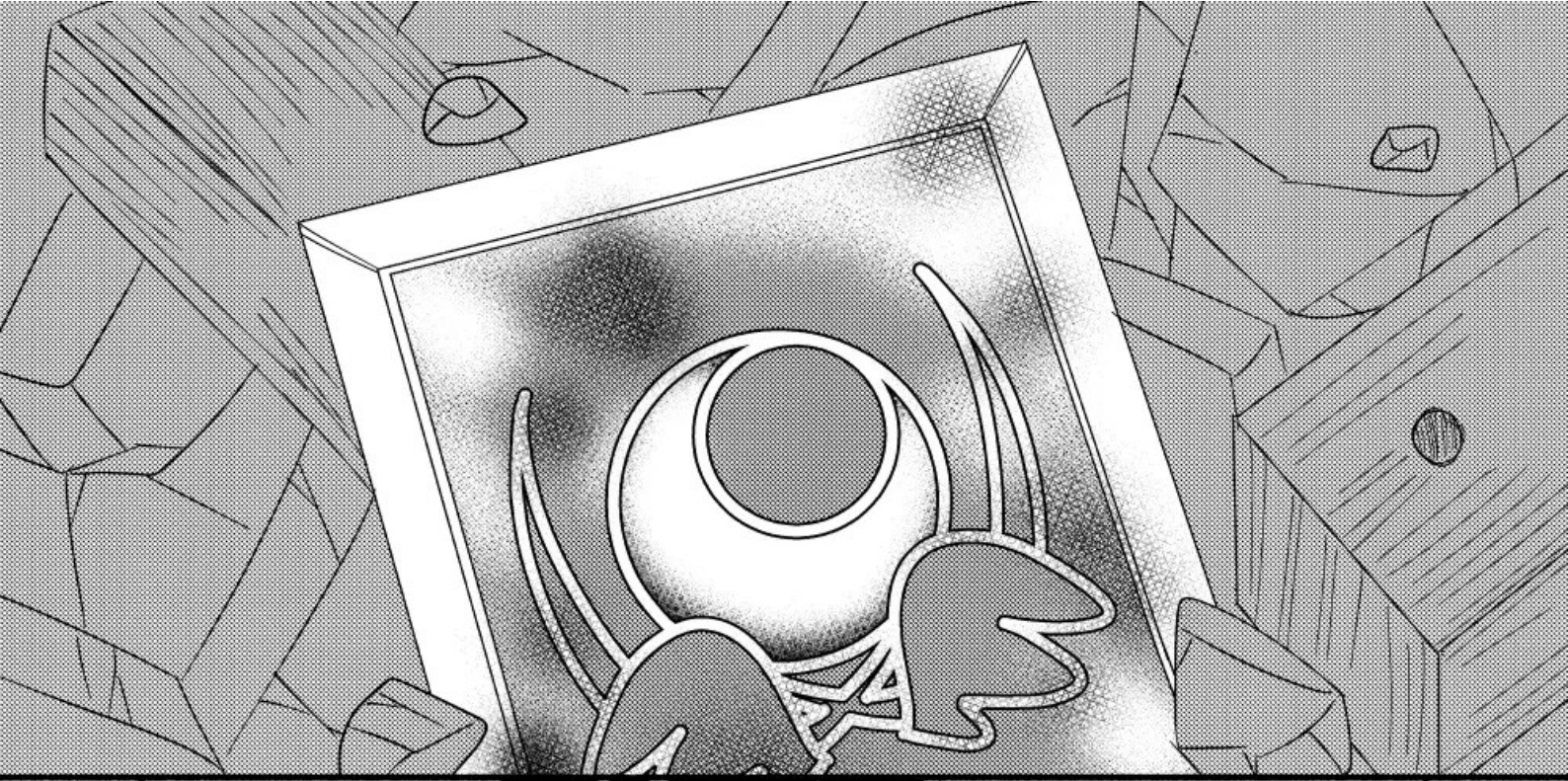
おいしい
おいしい
怖いコト言うなよ

でもこれだけ
食べ物があったら
またもどって
きちゃうかもね











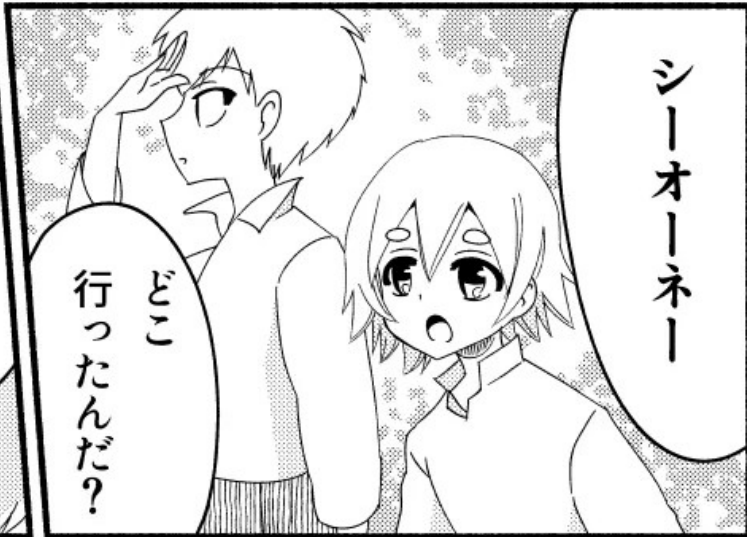
シオネー?

おーい

は



うわっ



シーオーネー

どこ
行ったんだ?



ムー
喜んで
くれるかなあ

そろそろ
帰ろーぜ



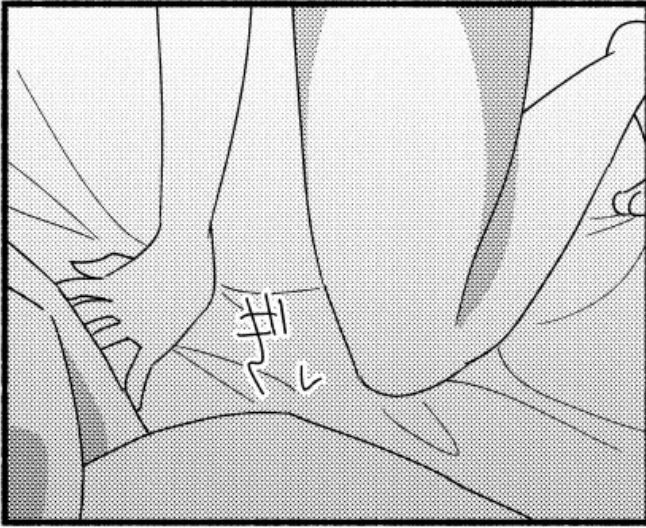
ななんか
あったのか?

迷子になっちゃった
のかと思ったよー

ううんっ

はー
はー





今日は
ひとりで寝るからっ

え

オイ

シオネっ

あの場所に
お母さんは住んでたんだ



だから

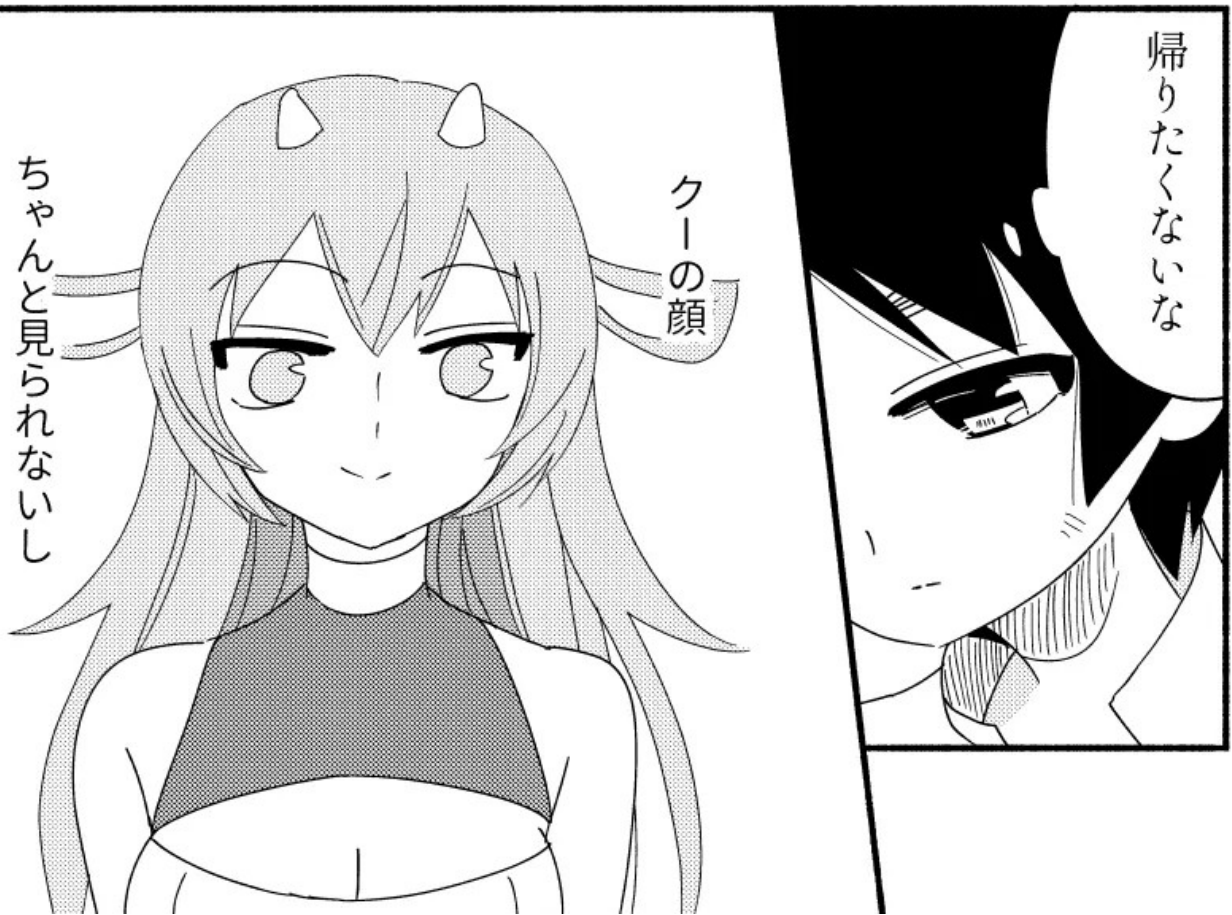
だから
クーは……

僕に嘘をついた



その夜は
どんな夢を見たのか
覚えていない





ここに住んじやおうかな



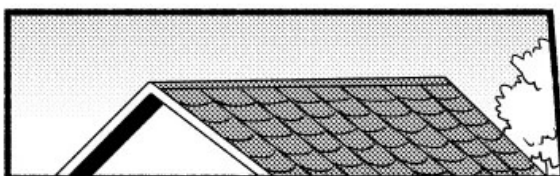
テントを張れば
雨除けになるし

近くに
湧き水もある

食べ物も
豊富にある



ここに住もう!!





なにやっつてんだア?

ひんっ!?

カリッ



コソコソ
家はいってくのが
見えたと思えば

離してっ



服こんなに汚して

脱げ

自分でするからっ

ほっといてよ



シオネ

私になんか
隠してねーか？



隠してるのは

クーのほうだろ



あそこには
行くなって言ったダロっ

どうして?
僕のお母さんが
住んでいたから?



キタノ森で
このペンダントと同じ
紋章を見つけた

!



っ
...



やっぱり
教えてくれないんだ



わ

私がっ



どうして今まで
本当のことを
教えてくれなかったの

...

クー

...



私がいるだろっ………？



本当のお母さんがいい



服

これくらいで
足りるかな：

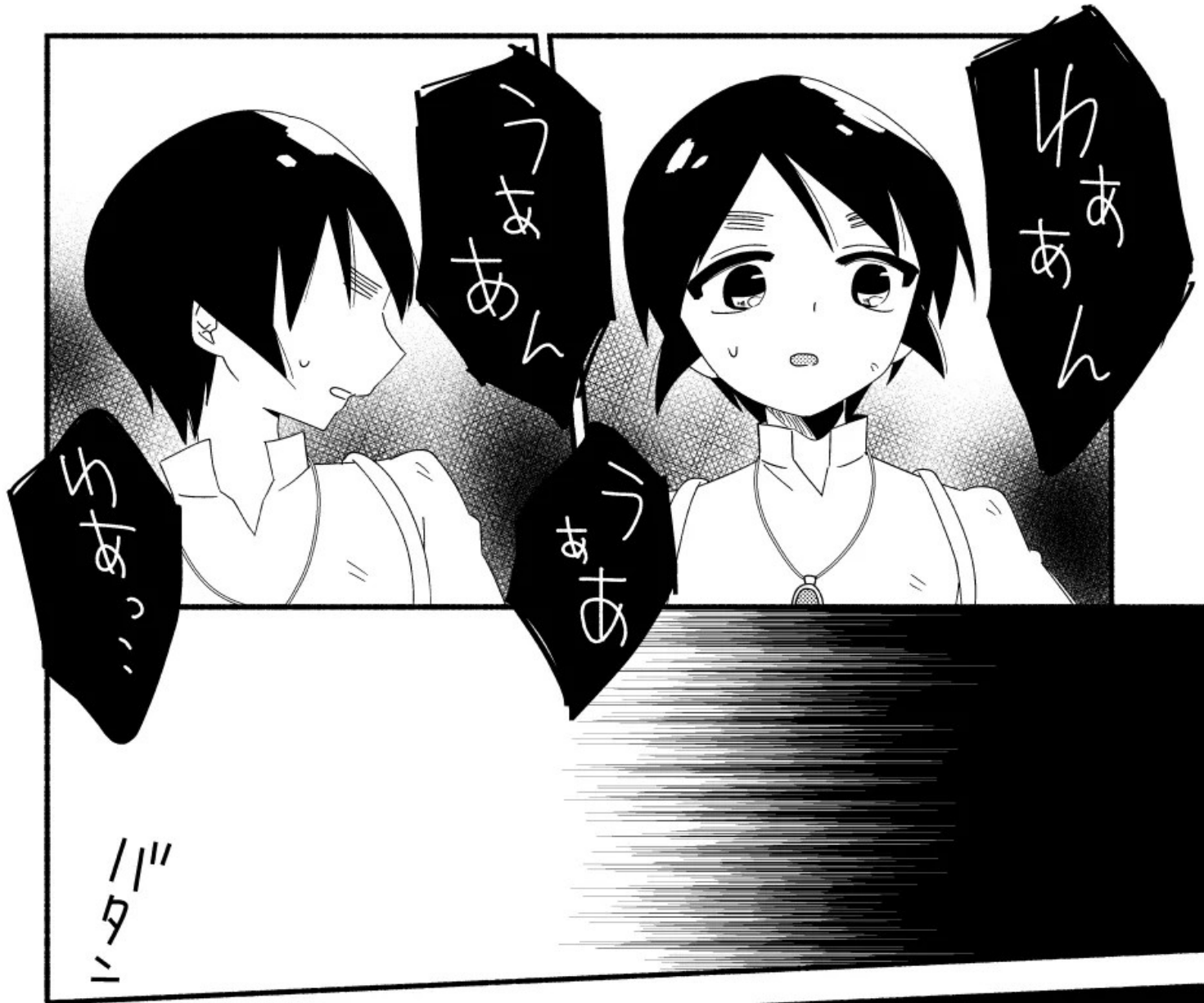


バツカヤローツ

オマエなんか

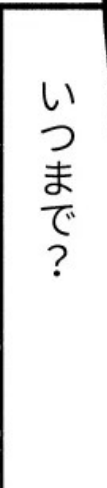
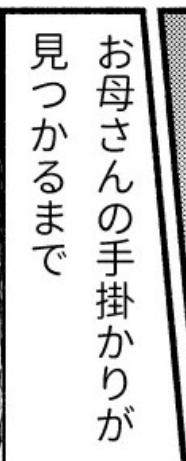
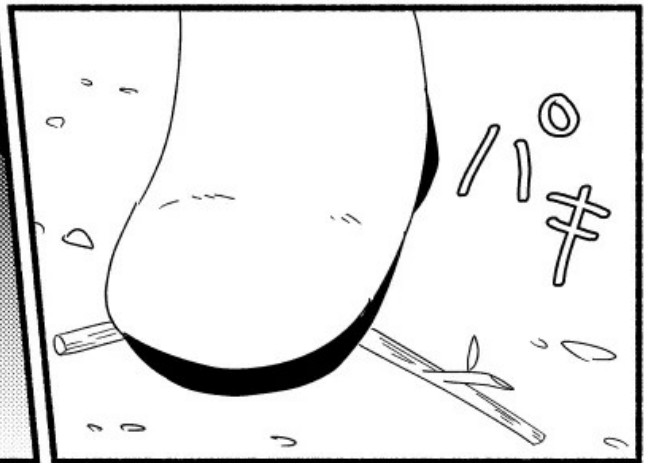
オマエ
なんかっ…

どこへでも
行っちまえっ…



いっ
た









ギム
ルトル…



シオネっ



うん…

大事なものが
ここにあるんだろ？



ムーに聞いたんだ
シオネがここに
いるって

…



1人より3人のほうが
早く見つかるでしょ？

俺たちも
探すの手伝うよ



ありがとうっ…!!



そろそろ
ご飯にするか

フー

疲れたあ

いっせーのーでっ

ご飯!
わーいっ



シオネの分も
あるぞ

ありがとう

いただきます

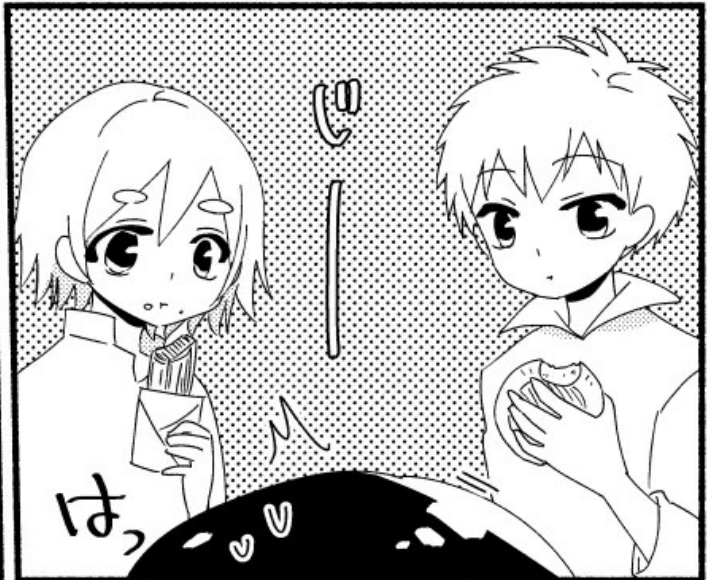
ほい

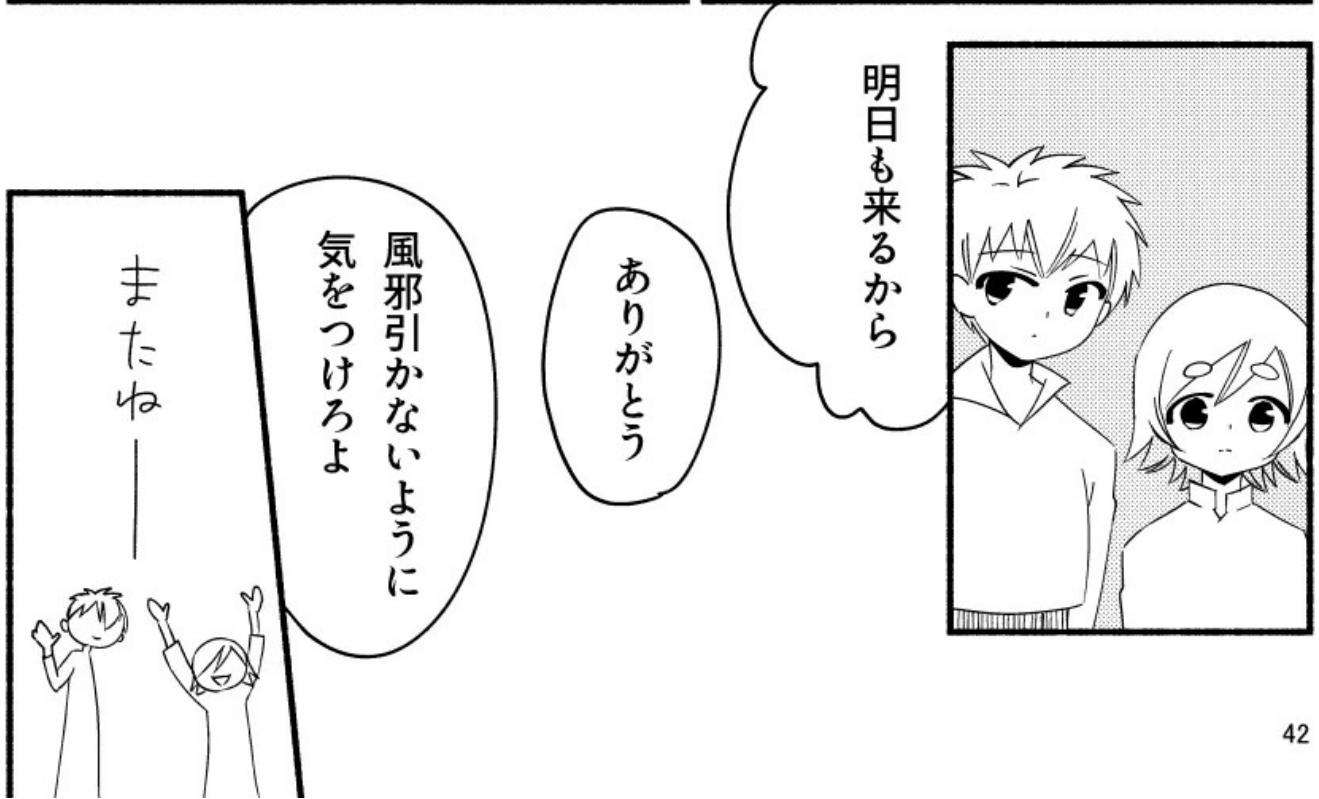
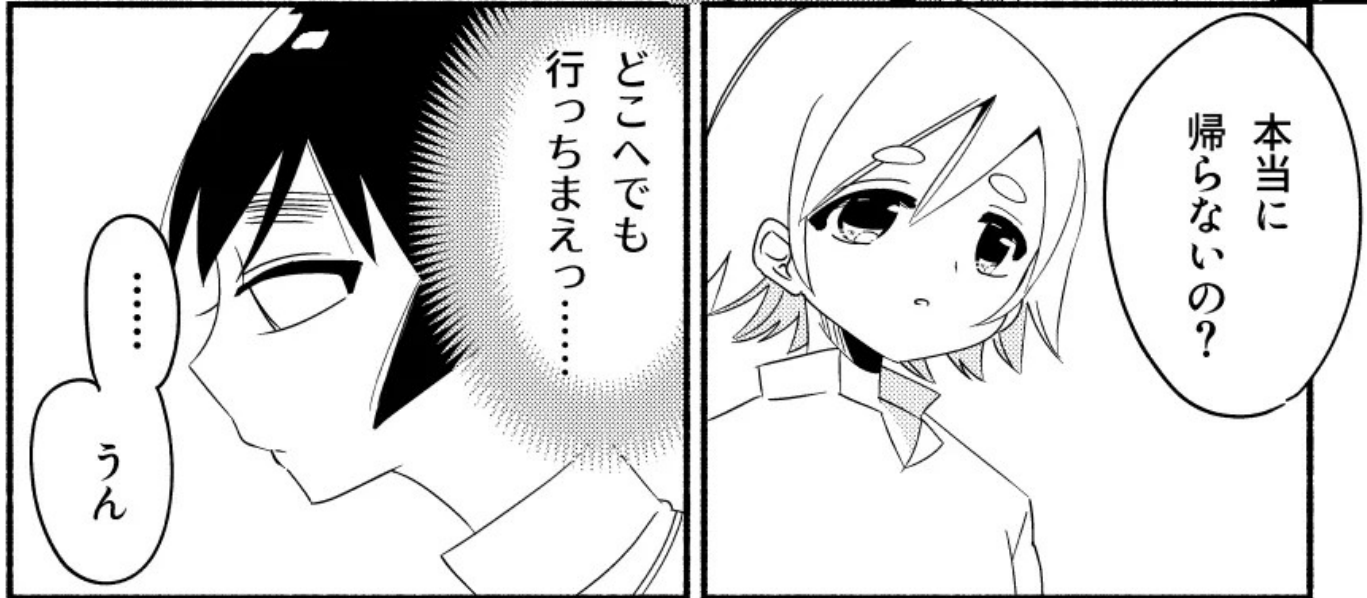


クルミパン

クーの味がする

クー……





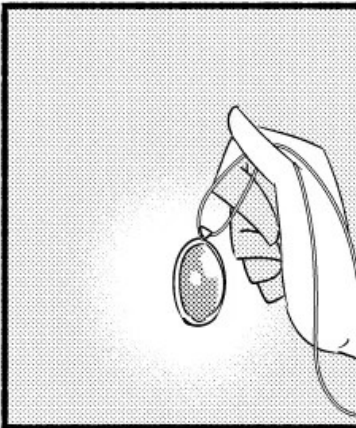


もうすこし
探そう



はあ

はあ



はあ

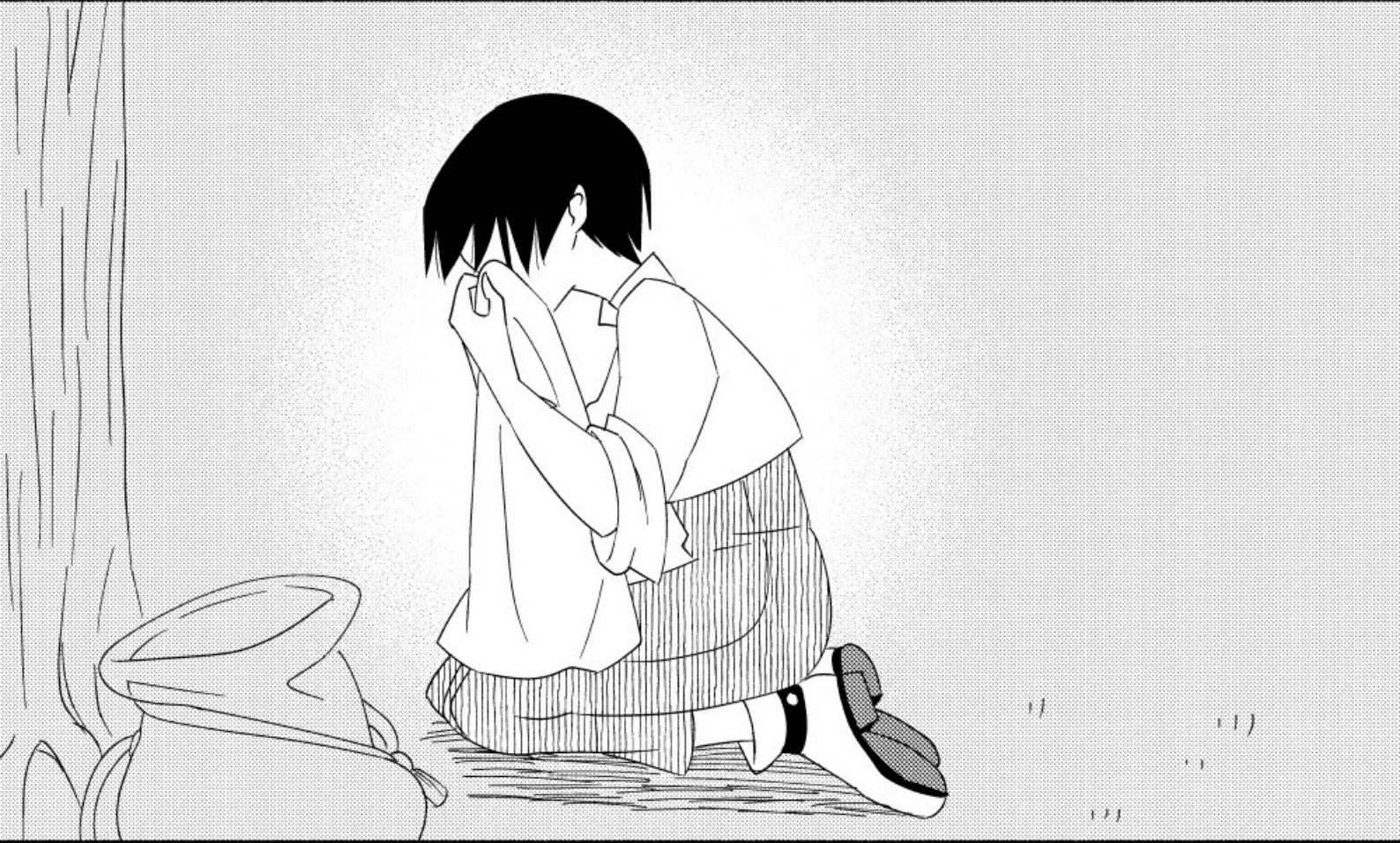
はあ

なにも
見つからない

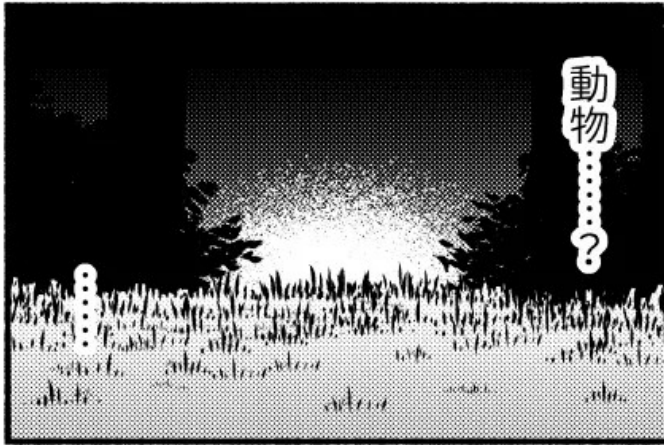


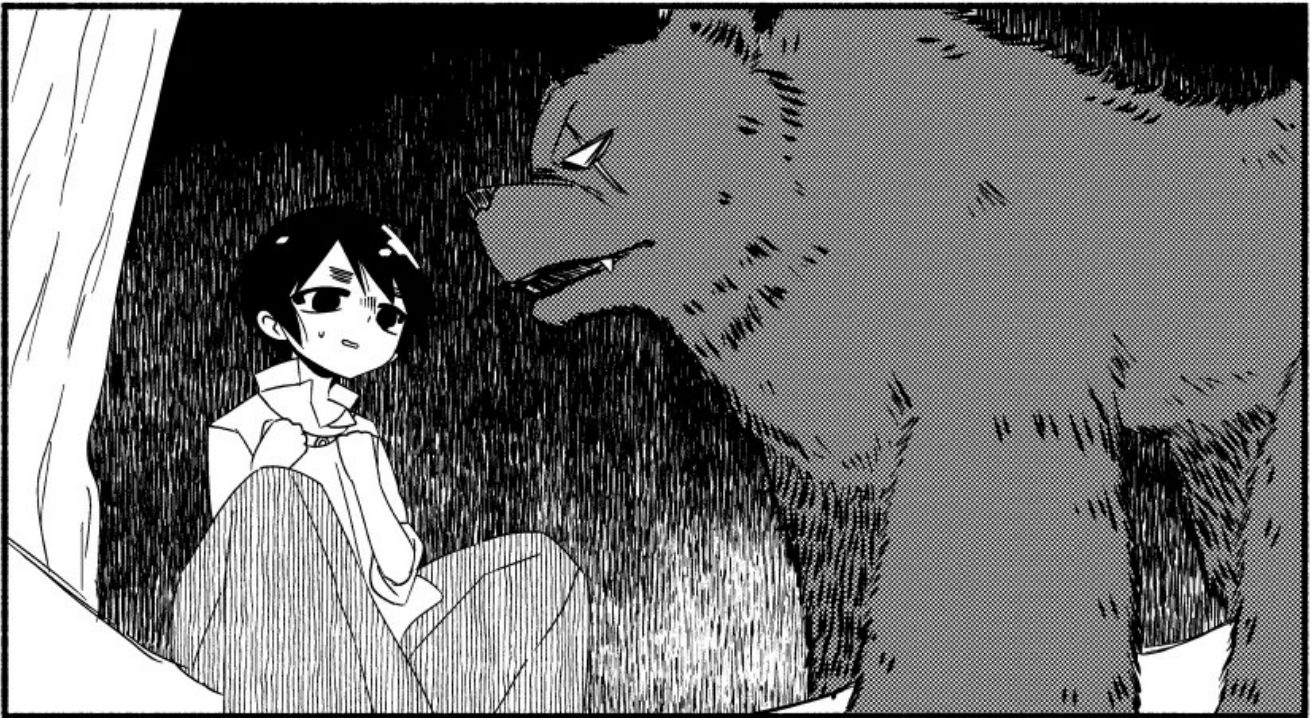
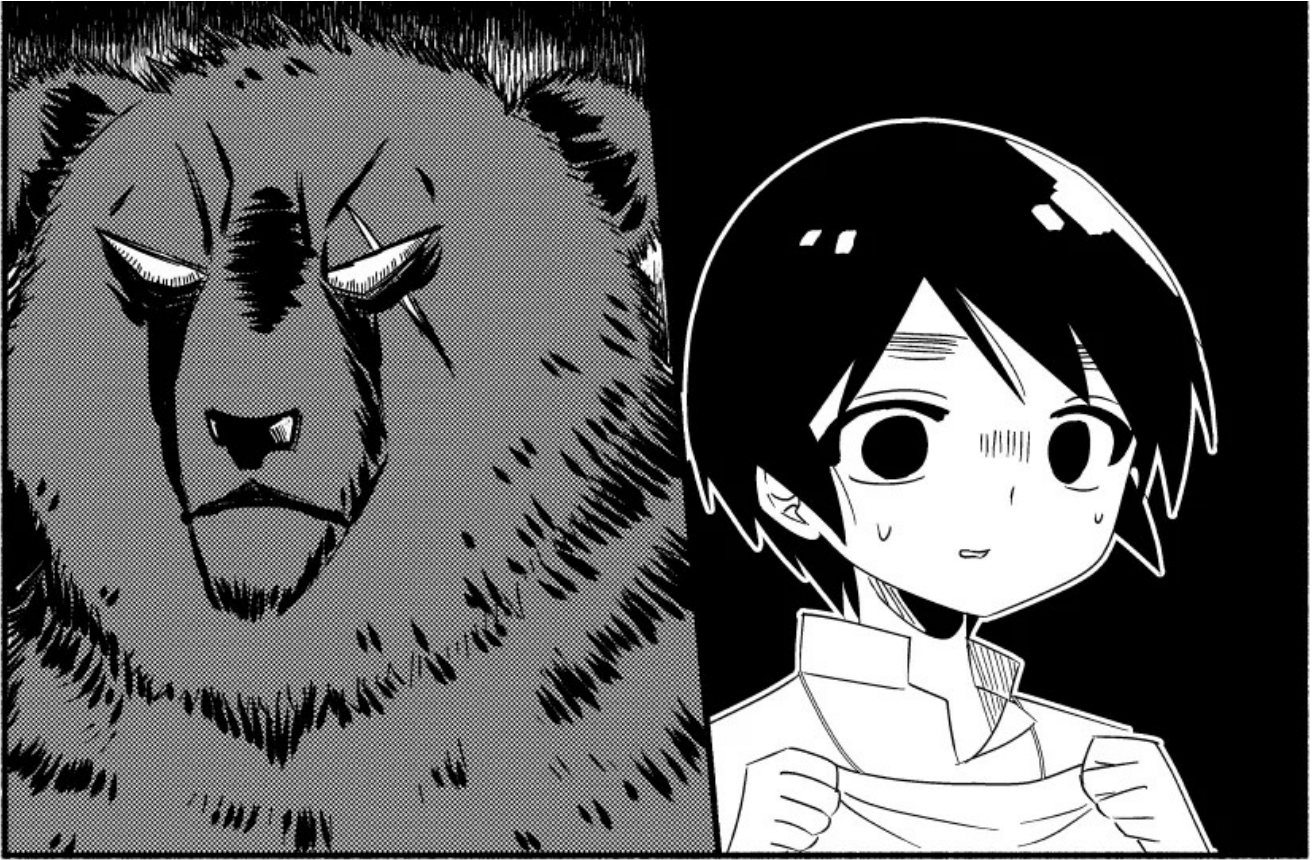
お母さん



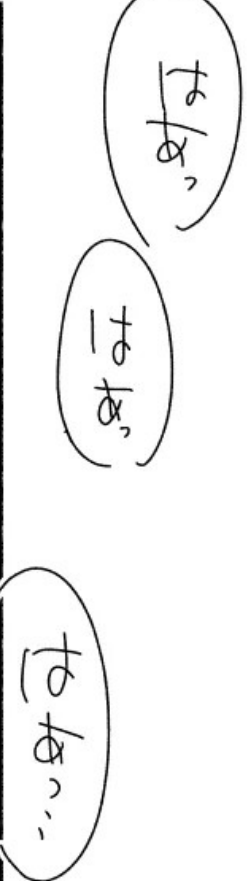
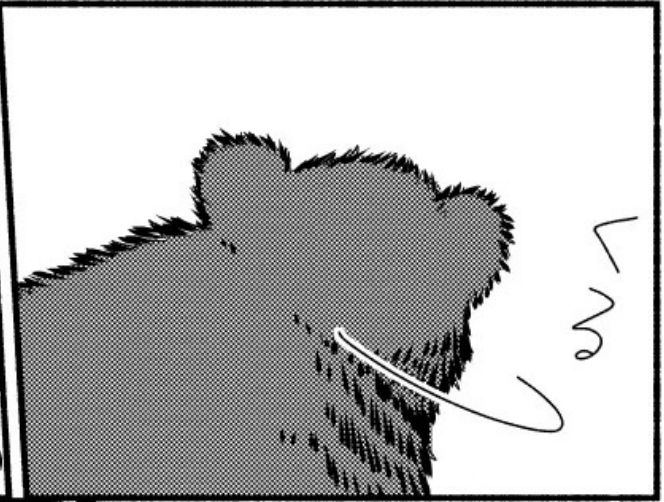
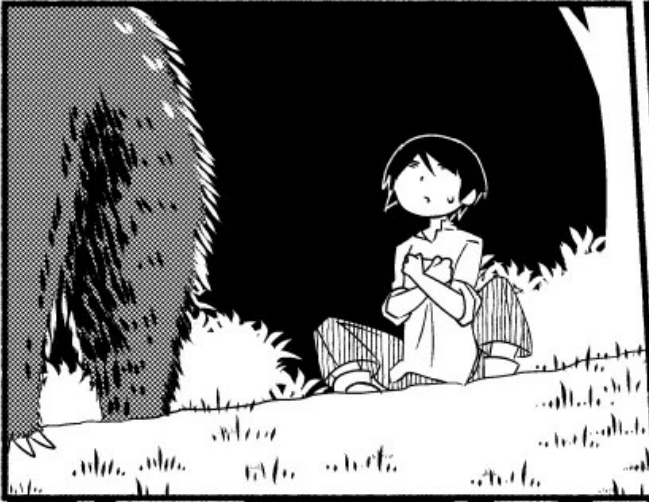


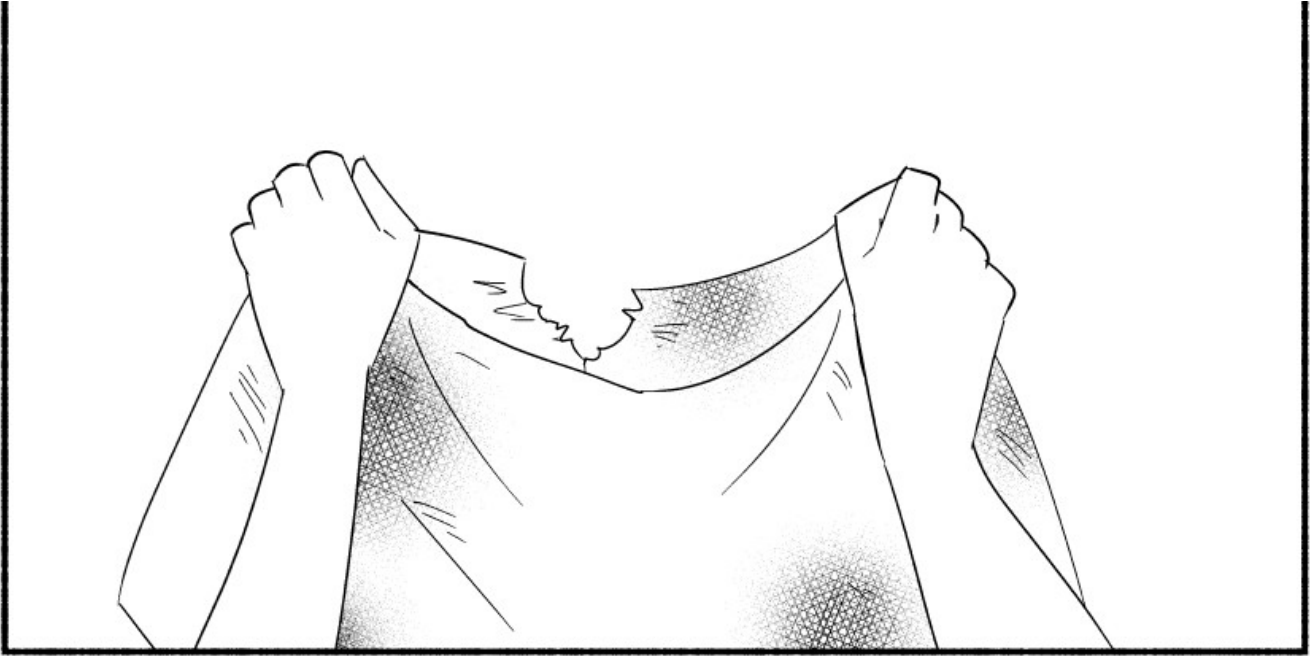
クー……!!

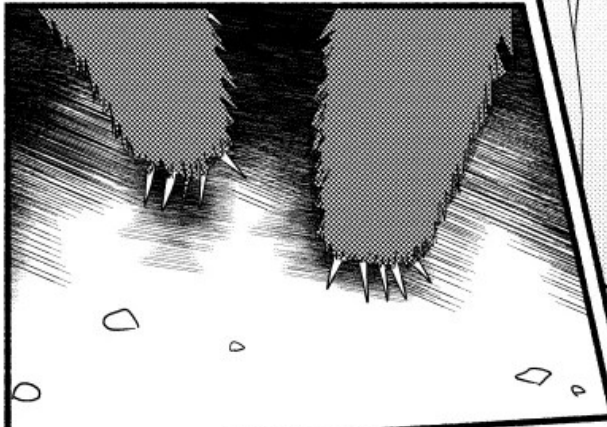




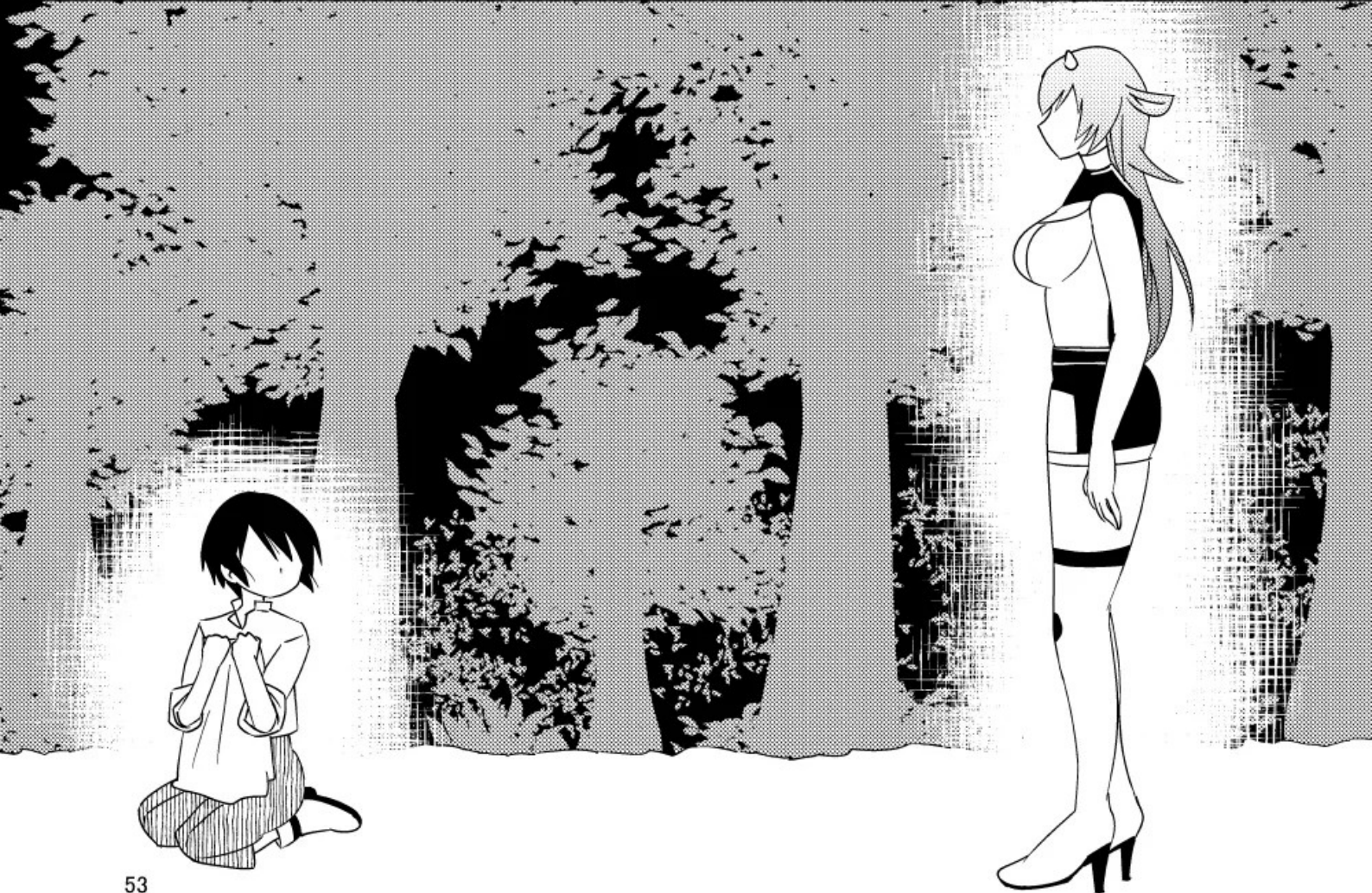


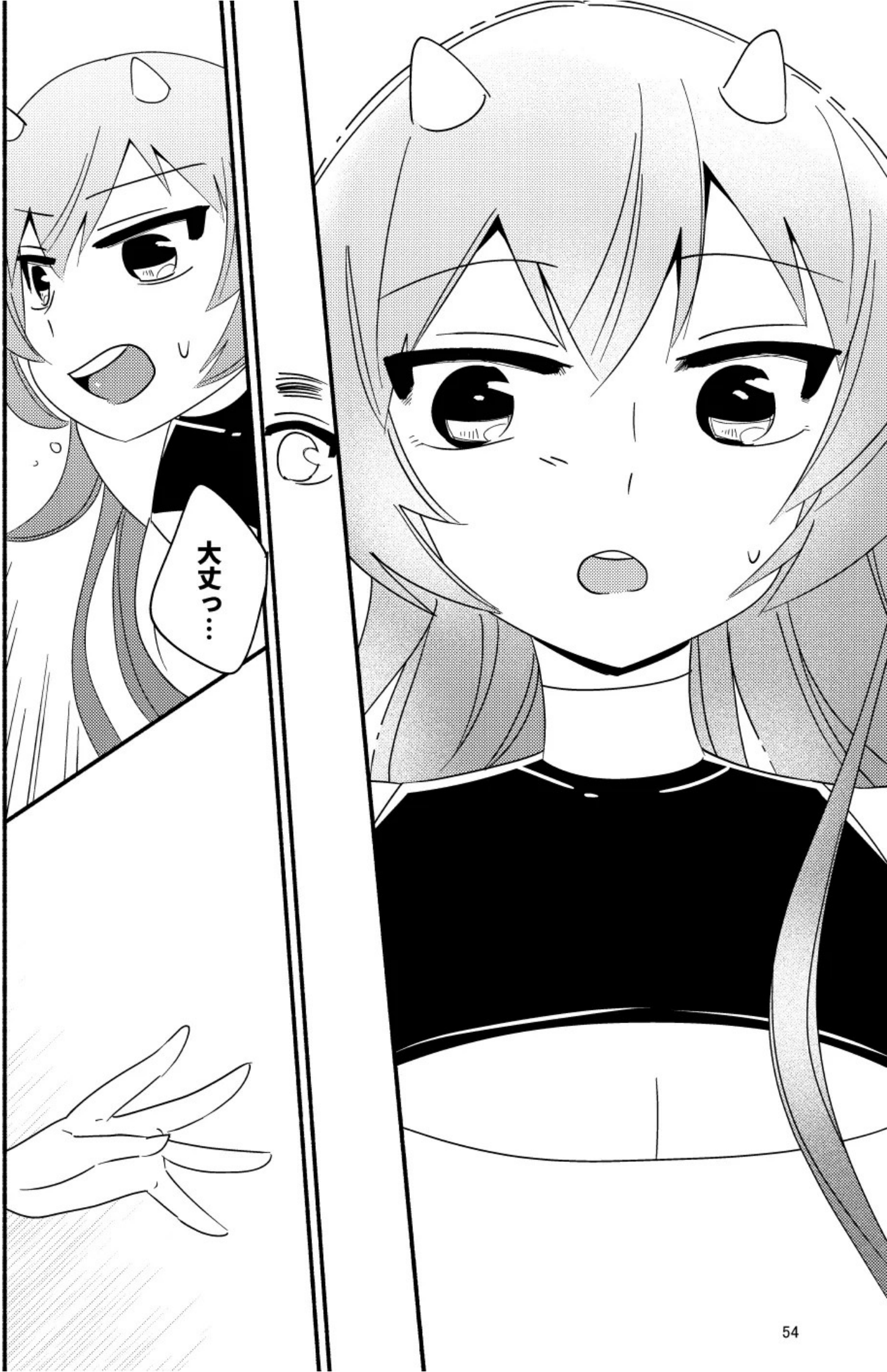












大丈夫...

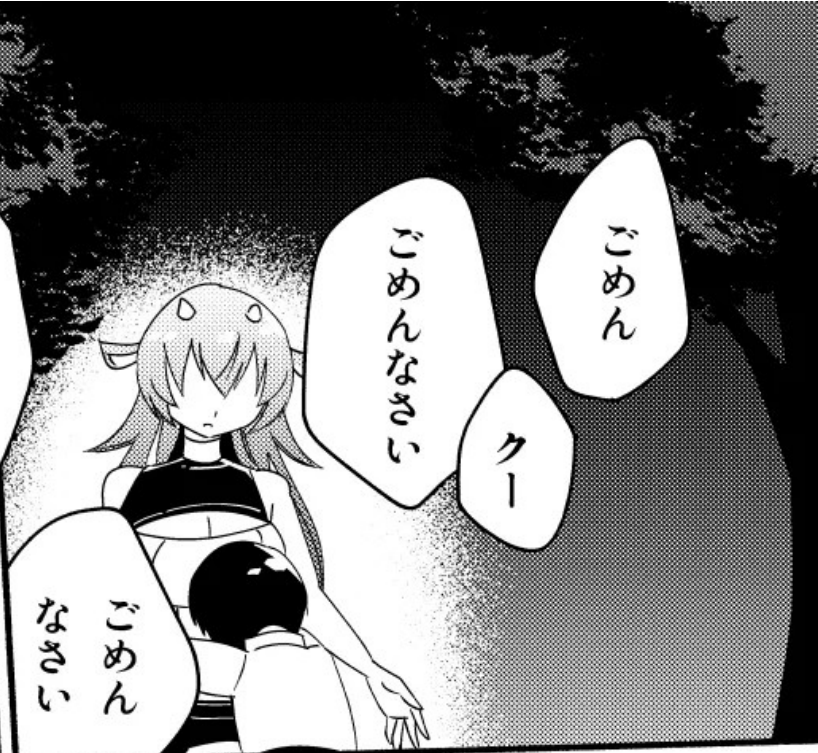




ひどいこと
いって

ごめん

なまっ...



ごめん

ごめんなさい

クー

ごめん
なさい



謝るのは
私のほうだ



ヒッヤ...

私が弱いから
シオネを危険な目に
遭わせた



クーは悪くないよ…

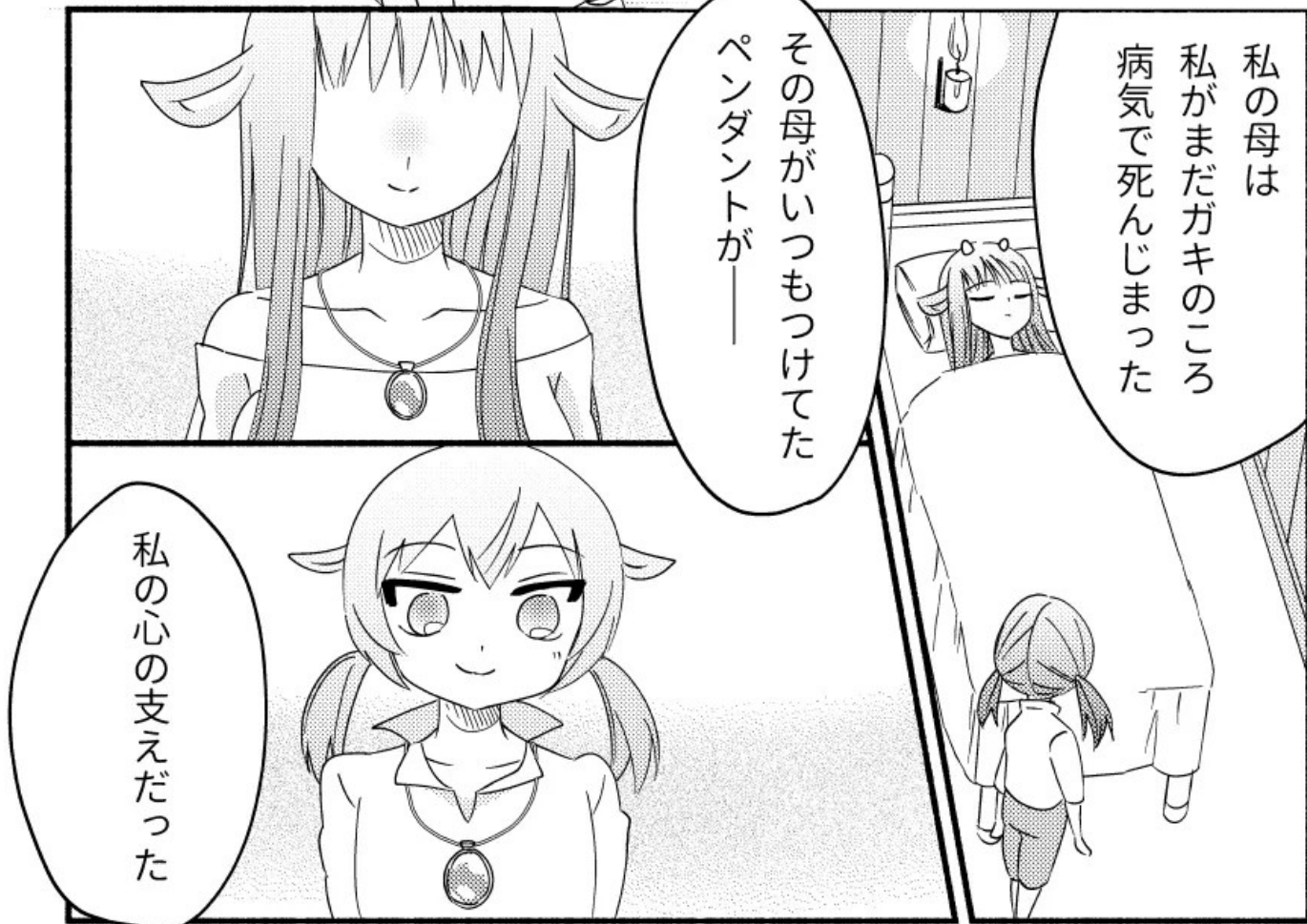
ちがう

ちがうんだ…

…ペンダント

あのペンダントは

私の母の
モノなんだ



私の母は

私がまだガキのころ
病気で死んじゃった

その母がいつもつけてた
ペンダントが—

私の心の支えだった

それから何年か経って

森でまだ

産まれたばかりの

シオネと出会って…

一緒に生活して

オマエが成長して
いくのがうれしくて

でも…

怖くなった

私はシオネにとって
イイ母親なのか？

私が母親で
イヤになったり
しないかって…考えたとき

シオネがいつか
私に愛想尽かしても

本当の母親っていう
存在があれば

それがシオネを
支えてくれるんじゃ
ないかって思ったんだ

だから——

シオネ

このペンダントは
オマエの母ちゃんが

オマエのために
残してくれたモノだ











あつという間に終わった

シオネ

誕生日
おめでとう!!



これでシオネもルトルも
俺より兄ちゃんかあ

あ
そっか



ありがとう
みんな



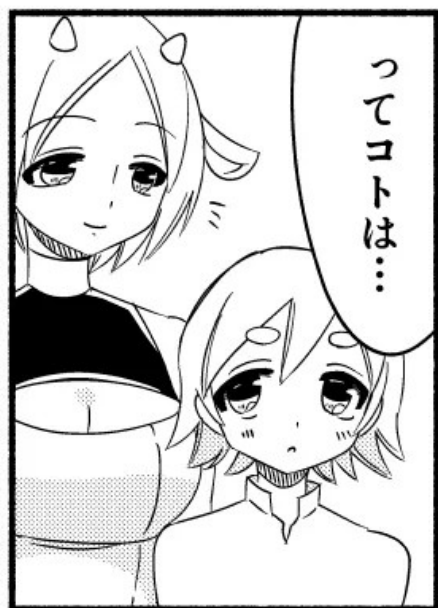
オイオイ
ルトルが大人かあ?

大人だもん



シオネも大人に
なるんだね……!!

?



ってユトは…



今回のことがあって
僕は成長したと思う

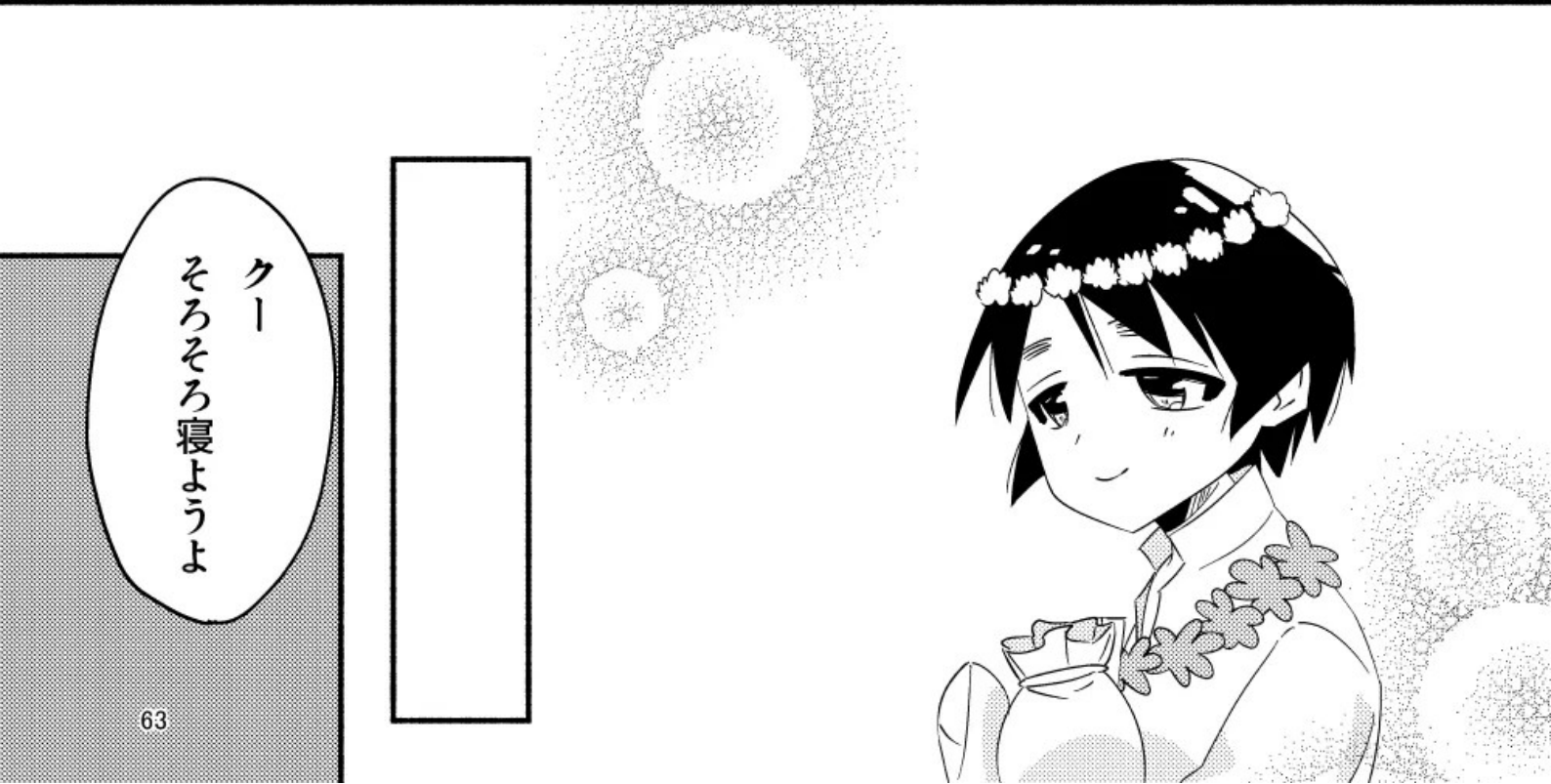
それに



大人
か



これまで以上にずっと
クーを近くに
感じるようになった



クー
そろそろ寝ようよ

だから離して…

ひしっ

ダメ

誕生日って大事な日を

あの2人と
一日遊んだんだから

夜は私の番ダロ

子供みたいなこと
言うんだから

こんな母親は
イヤか？

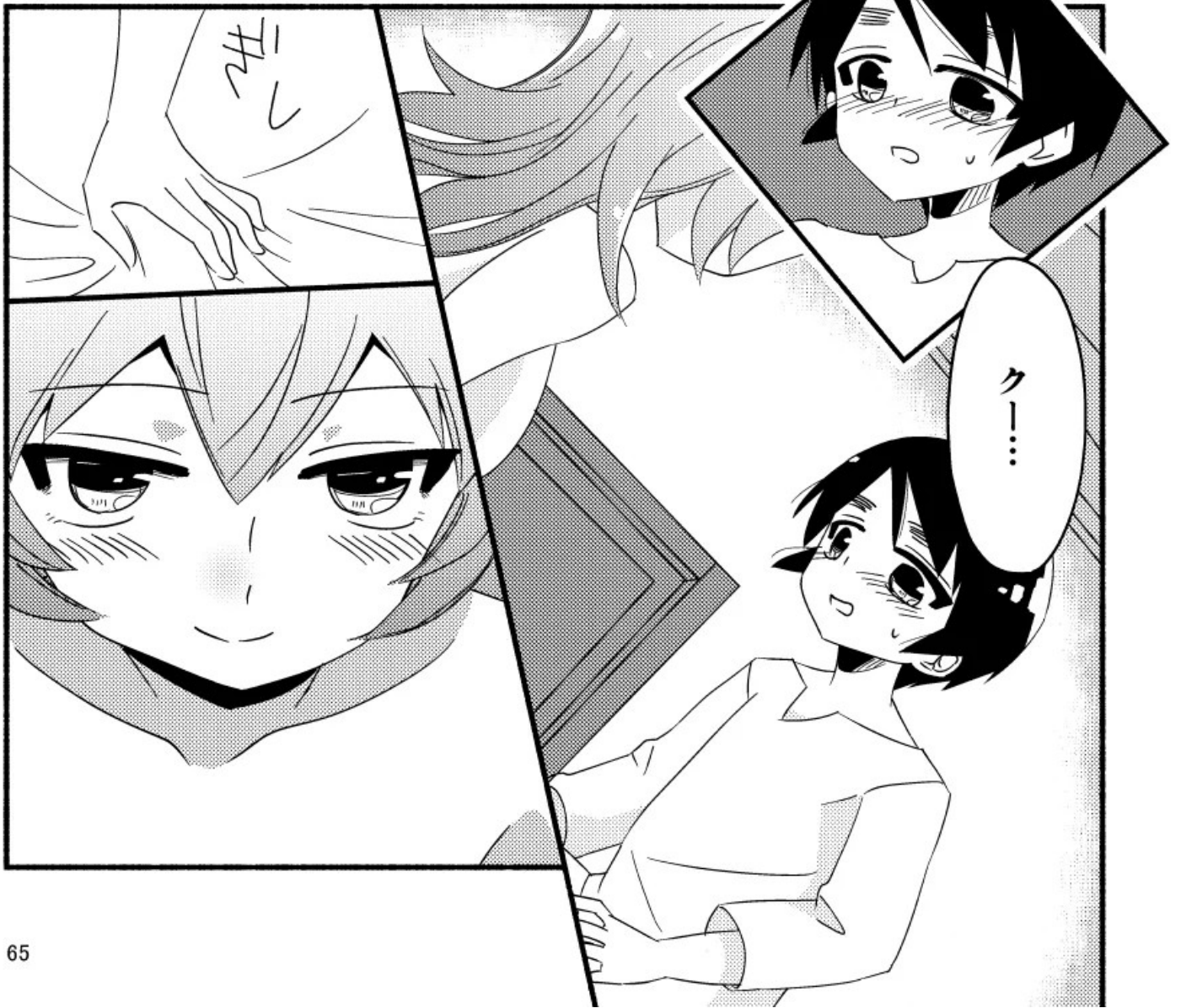
いやじゃないよ

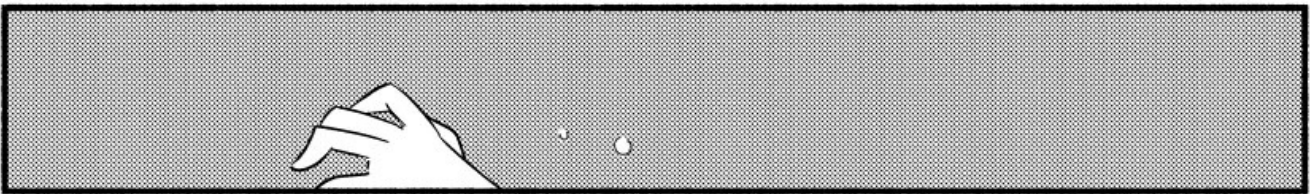
クーのこと

大好きだ

私も

シオネが
大好きだ



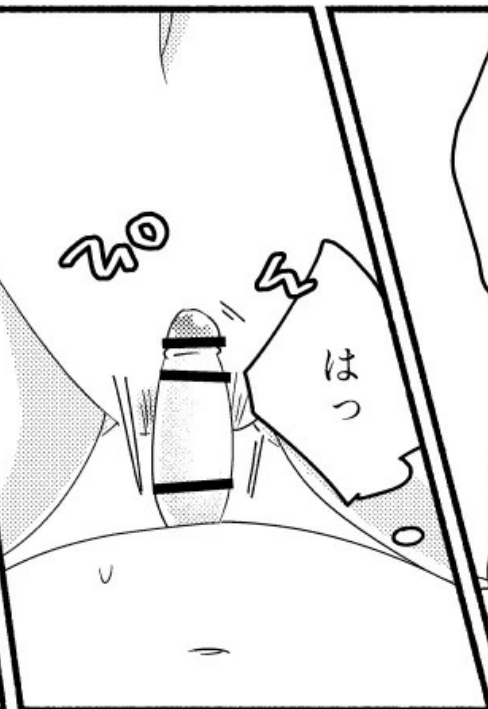




シオネのマネだ



くすぐすたいよ



あたり前だろっ

乳は出ないな

今さら隠すモンでもないダロ

いつもとちがうからだめ

見せろ

やだ

見せろって

だめ

ゆき

だったら

いちいちいち
いちいちいち

ハハハハハハハハ

ハハハハハハハハ
ハハハハハハハハ

ハハハハハハハハ

いっやうう

た



どこも
おかしくねーぞ？

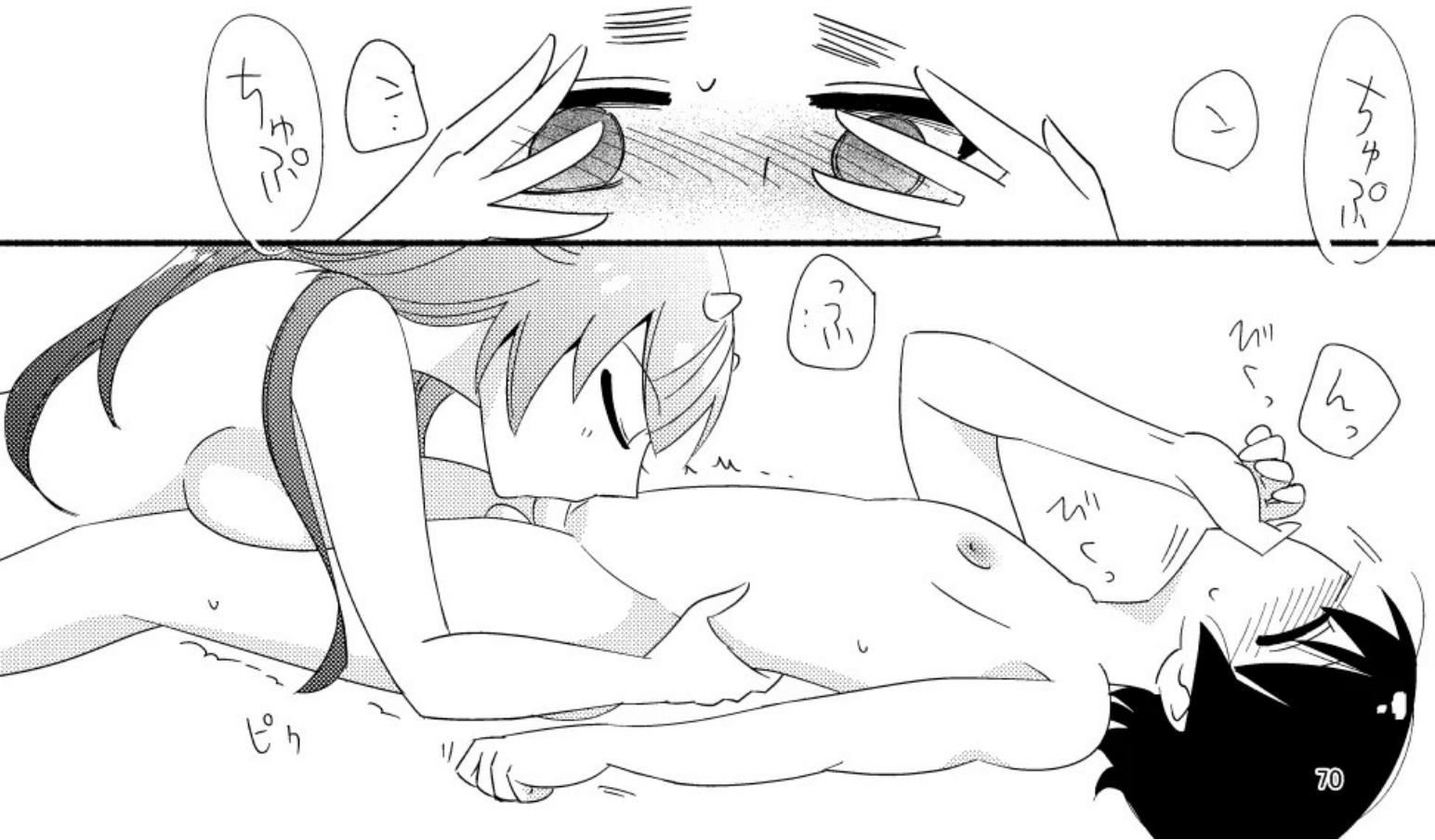


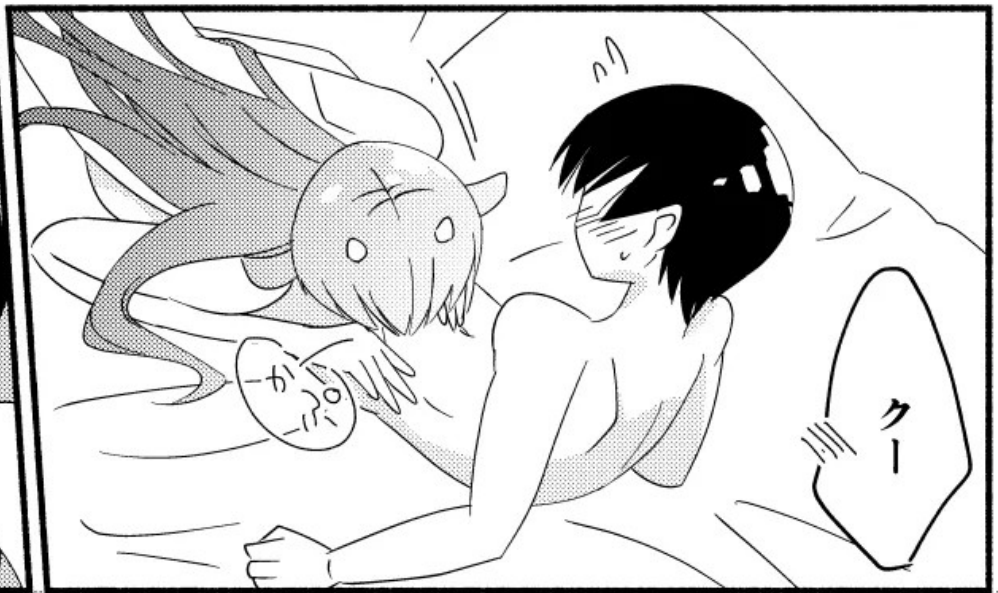
シオネが私に
ドキドキしてるから
こうなるんだ

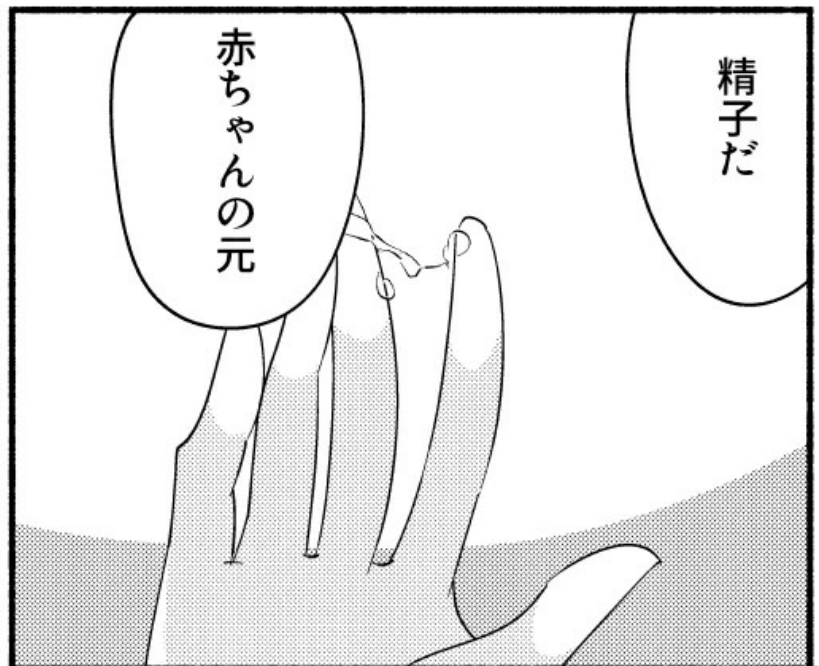
……

私はうれしい











クーと僕の
赤ちゃん…

でも

そっか



私？



僕の大切な人は
クーだよ

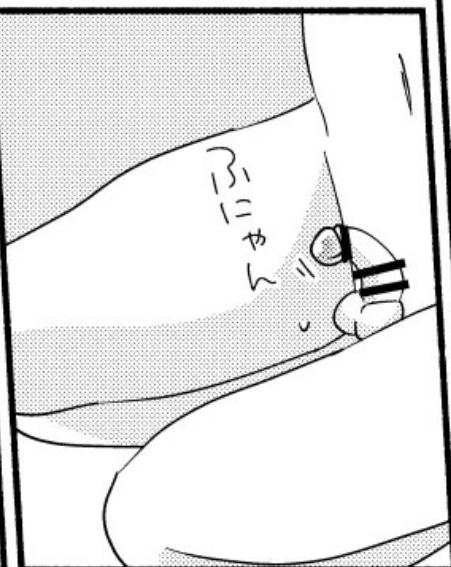


だって大切な人だろ？





まかせろ



ふにゃん



せーし
また出せるかな

ふは



むに

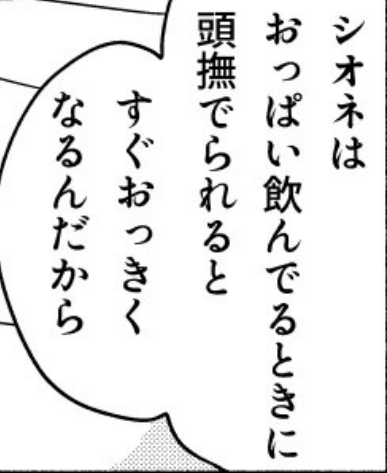
ちゅっ
はっ



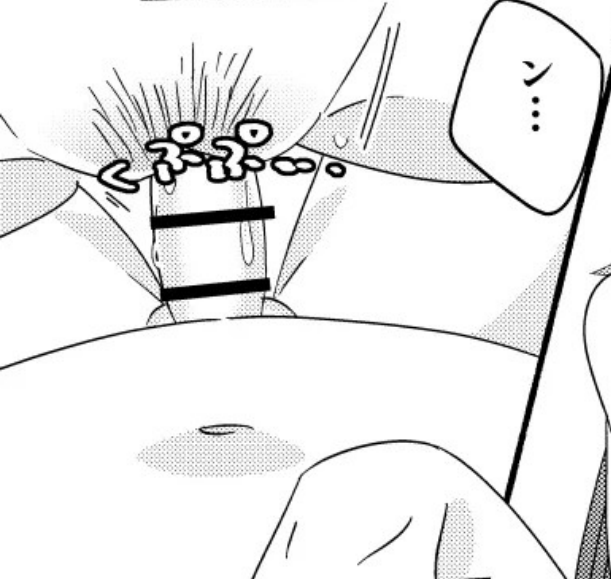
ほら
かたくなってきた

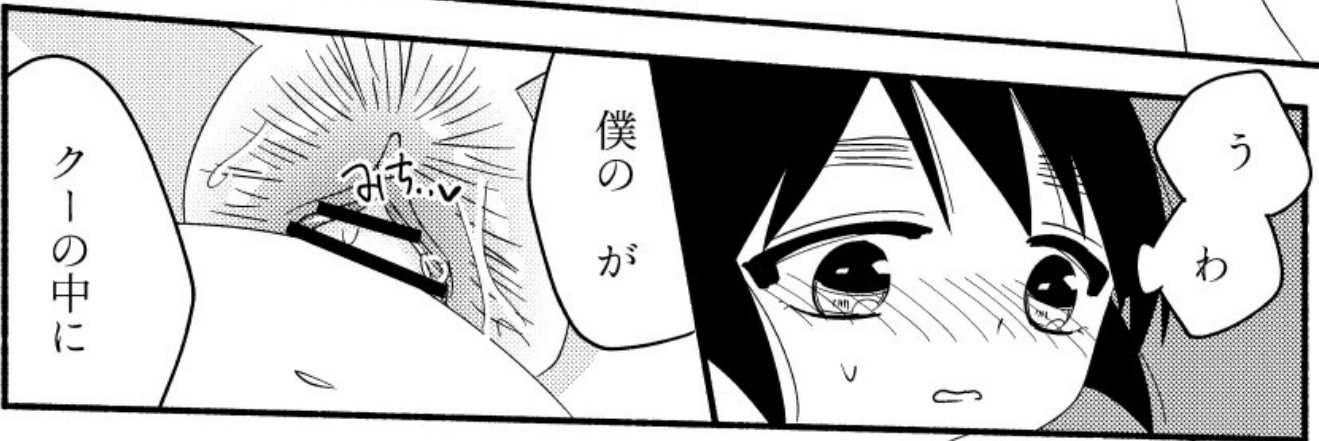


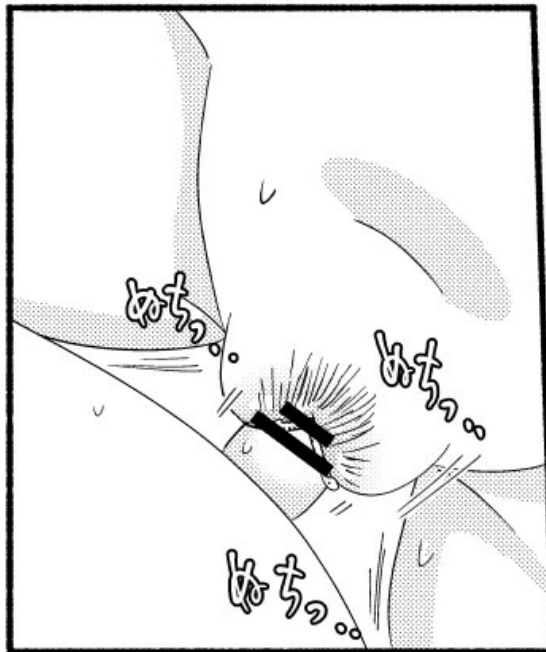
バレてる…!!



シオネは
おっぱい飲んだるときに
頭撫でられると
すぐおつきく
なるんだから









気持ちいいの!



すっごく
気持ちいい……!!

僕も



シオネ……っ



クー…

でるっ…

いぞっ…

出して

シオネの精子

らっぽらっ…

出して…!





はあ

はあ

はあ

交尾って
気持ちいいんだナ…





悪くないよ

悪いかよッ

キィ
ク

ひよっとして
はじめてだったの？



これでクーム
大人だね



きらきらと光る
暖かい場所



僕はそっぴい

おしまい

時系列

・クーの父と母、キタノ森にて結ばれる



・クーの父 家紋をつくる



・家に悪漢が押し入る

クーの父、身重の母をどうにか逃がすも
命を落とす

・クーの母、住居を魔々の村に移りクーを出産

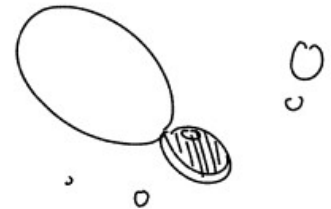


・クー、母から父の話聞き
キタノ森へ向かうも、そこは
いつしかクマたちの住処に…



・クーの母、病死

クー、亡き母のネックレスを
投げどころに生きていく



・クー、森で赤ん坊のシオネを拾う

・母としての自分に不安を持つクー
亡き母のペンダントを偽り、シオネに譲り渡す

・シオネ、ペンダントの存在から
本当の母親に思いを馳せる…



・シオネ、クーからペンダントの経緯を聞き
ぶん投げてしまったことを後悔
探しに行くことを決意する

魔々のあれこれ

乳を売って生計を立てている



排卵が数年に一度しかない
(妊娠しづらいのはこのため)

赤ん坊は性別がメスの場合
魔々として産まれる
(ごく稀に魔々として産まれる
オスもいる)



乳房が発達して
乳が出るようになると一人前



あとがき

お茶の子サイダーです!!

おぬシヨクに萌えていたら
ママシヨクもいけるようになった今作です。

Hシーンがあんな感じになったのは ←ドラマ
ネームを描いてるときに「鈴木先生」を
見たからだと思います。おもしろかったです。

描きながら設定をアレコレ考えたので
同じ世界観でまた描いてみたいなあ
と思ったりしています。

それでは

ここまでおつきあい下さり

ありがとうございました!!!

お茶の子サイダー

